

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	心理学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	内山 彩香	実務経験	臨床心理士		
講義目標	一般目標				
	人間をより理解するために学習心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学等様々な領域の心理学について学び、体系的な知識を身に付けるとともに、人の心についての客観的な視点を獲得する。				
	到達目標				
		人間の心の基礎的な仕組みを知り、身近な現象と結びつけて説明できるようになる。			
回数	講義内容				
1	オリエンテーション				
2	動機づけ				
3	学習・条件づけ				
4	記憶と忘却				
5	発達①				
6	発達②				
7	性格・パーソナリティ				
8	家族				
9	感情との付き合い方				
10	恋愛と多様な性				
11	社会心理学 集団				
12	社会心理学 攻撃				
13	カウンセリング入門				
14	ストレスとその対処				
15	試験				
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法

講義は全て対面で実施します。

講義で使用する機器・教材

授業では、資料を用いながら心理学の基本的な内容について取り扱います。
資料は各回で配布する予定であるため、各自で保管を行うこと。

履修上の注意事項

フィードバックシートを配布し、そこに書かれた質問・課題に適宜答える形で学生へのフィードバックを行います。また、授業内で理解を深めるための課題を課すことがあり、取り組みに応じて加点を行います。

成績評価方法

授業内課題（30%）・学期末試験（70%）

教科書・参考書

特に指定しません。適宜、配布資料を用意します。

予習復習のアドバイス

予習：講義テーマについて調べてくる。自分の経験を思い出してみる。

復習：授業内で扱った重要語句について、200字程度でまとめる。

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	作業療法科/理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	倫理学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	徳田 幸雄	実務経験			
講義目標	一般目標				
	「人間とは何か?」「生とは?」「死とは?」といった人間観や死生観の根本的な問いを軸に、人間の尊厳性を再考するとともに自身の人生観をも見つめ直す。□				
	到達目標				
さまざまな倫理思想に触れることにより、現代に求められる倫理観を養う。自分自身の考えを論理的に表現できるようにする。					
回数	講義内容				
1	プラトンの「死の道」				
2	プラトンの「愛の道」				
3	ユダヤ教における人間観と死生観				
4	キリスト教における人間観と死生観（原罪の理解から）				
5	キリスト教における人間観と死生観（回心の歴史から）				
6	イスラームにおける人間観と死生観（6信から）				
7	イスラームにおける人間観と死生観（5行から）				
8	インドの宗教における人間観と死生観				
9	仏教における人間観と死生観（四諦から）				
10	仏教における人間観と死生観（日本の13宗から）				
11	神道における人間観と死生観				
12	近代人と死				
13	優性思想について				
14	人工妊娠中絶問題				
15	テスト				
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 マインド・マップを配布資料として利用し、可能な限り視聴覚資料も取り入れつつ講義をすすめる。
講義で使用する機器・教材 配布資料(マインド・マップ)
履修上の注意事項 私語を慎むことをはじめ、常識的なマナーで受講すること。講義と無関係なサイトや動画を視聴するのは論外。
成績評価方法 授業内で実施するチェックテストと定期テストで評価する。
教科書・参考書 使用しない
予習復習のアドバイス 予習: 日頃から、哲学・倫理・宗教に関わるニュースに関心をもって触れること 復習: チェック・テストを見直すこと

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	1年
学科	作業療法科・理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	教育学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	牛渡 淳	実務経験			
講義目標	一般目標				
	本授業では、「教育」という営みの本質と目的・思想を通して、人間とは何か、人間を育てる意 そして、人間を尊重する社会の在り方について理解することを目標とします。				
	到達目標				
	①教育の意味と教育者の役割について理解すること。②人間の成長発達における素質と環境の役割について理解すること ③教育の目的・思想と我が国の教育の基本的な法律について理解すること。 ④生涯にわたる学びと教養の関係について理解すること。				
回数	講義内容				
1	教育とは何か 教育の意味・必要性・本質・ルソーの教育論				
2	教育の本質と教育者の在り方(1) 「個性」に即して				
3	教育の本質と教育者の在り方(2) 「自主性」に即して				
4	素質と環境と教育(1) 素質と環境の関連性と研究				
5	素質と環境と教育(2) 素質と環境に関する研究(続き)				
6	素質と環境と教育(3) 素質と環境と教育政策・教育者の関連性				
7	教育の場(1) 教育の場としての家庭・学校・社会				
8	教育の場(2) 学校の特質と教育者の役割				
9	ビデオ鑑賞と授業の振り返り ビデオ『青い目・茶色い目』				
10	教育の目的(1)真・善・美の探究 ソクラテス・プラトン・アリストテレス				
11	教育の目的(2)民主主義社会の市民の育成 ルソー・コンドルセ・デューイ				
12	わが国の教育の基本的な法律 日本国憲法・教育基本法他				
13	生涯にわたる学びと教養(1) 教養の意味と歴史				
14	生涯にわたる学びと教養(2) 文学や詩を通じた教養の学びの事例				
15	試験				
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 毎回、配布する資料に基づいて、詳細な解説を行います。
講義で使用する機器・教材
履修上の注意事項
成績評価方法 定期試験とコメントペーパーで評価します。
教科書・参考書 教科書は使用しません。
予習復習のアドバイス 授業の終わりに毎回コメントペーパーを作成してもらいます。頂いた質問や意見のいくつかについて次の授業の冒頭で解説や補足を行います。

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	後期	学年	1学年
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	社会福祉学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	千脇隆志・高梨友也・	実務経験			
講義目標	一般目標				
	科学的、倫理的思考力を育み、主体的な判断と行動を培うことを目指し、生命倫理、人の尊厳を幅広く理解することができる。				
	到達目標				
		<ul style="list-style-type: none"> ・学生が国民の保健医療福祉の推進のために作業療法士が果たす役割を説明できる。 ・社会保障全般と社会福祉関連法規について説明できる。 			
回数	講義内容				
1	講義オリエンテーション (千脇)				
2	現代における社会問題と社会構造 (千脇)				
3	社会福祉の全体像 (千脇)				
4	社会福祉を担う専門職 (千脇)				
5	社会福祉の根源 (高梨)				
6	福祉政策の基本的な視点 (高梨)				
7	福祉政策の構成要素と過程 (高梨)				
8	福祉政策のニーズと資源 (高梨)				
9	福祉サービスの供給と利用の過程 (高梨)				
10	福祉政策と関連施策 (高梨)				
11	福祉政策の国際比較 (高梨)				
12	日本の社会福祉の歴史的展開 (高梨)				
13	欧米の社会福祉の歴史的展開 (千脇)				
14	講義 まとめ (千脇)				
15	事例検討 ()				
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 基本方法として、講義、演習。 必要時ディスカッション、小レポート iPad持参
講義で使用する機器・教材 教科書、iPad持参。 パソコン、スクリーン使用。
履修上の注意事項 体調管理には、十分留意ください。 不明な点は、そのままにせずに、担当に確認ください。 配慮等、必要な方は遠慮せずにお知らせください。
成績評価方法 期末試験70%、小レポート20%。参加態度10%
教科書・参考書 社会福祉学習双書 社会福祉の原理と政策2023
予習復習のアドバイス 事前に教科書の行う単元を読むように心がけてください。 講義中は、適宜ポイントを示します。試験のためには、講義中のポイントを整理しておいてください。

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	作業療法科/理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	工学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	岩淵 正則	実務経験			
講義目標	一般目標				
	力学の基礎を通じて科学的・論理的思考力を身に付け、理論から実際の物作りへの応用力を養うことを目標とする。				
	到達目標				
運動力学の基礎となる力学の基礎を学び、続いて電気工学の基礎を理解する。また、随時制御の仕組みや機械の機構による運動の伝達部分の基礎を理解する。現在の介護ロボットの仕組みについて理解することを到達目標とする。					
回数	講義内容				
1	物理量とその表し方。基本単位と組立単位。ベクトル量とスカラー量。				
2	指数の計算。有効数字とその計算。				
3	物理学で使うグラフと関数。三角関数。				
4	いろいろな運動。速度。加速度。等速直線運動。				
5	等加速度直線運動。				
6	自由落下。鉛直投げ上げ。				
7	力。力の単位。重力。張力。垂直抗力。摩擦力。弾性力。				
8	力のつり合いと運動の法則。運動方程式。				
9	物体の重心と回転運動。				
10	力のモーメントと3つのでこ。				
11	運動量。仕事と仕事率。				
12	運動エネルギーと位置エネルギー				
13	力学的エネルギー保存の法則。				
14	電流と抵抗。				
15	電気回路。直流と交流。				
16	期末試験				
17					
18					
19					
20					

講義方法 板書中心で進めるが、随時過去の国家試験問題の解答解説や関連資料のプリントを配布する。
講義で使用する機器・教材 教科書・ノートなど。
履修上の注意事項 板書内容をノートに記入し、わからないことは遠慮なく質問すること。
成績評価方法 定期試験と提出物、出席率で評価する。
教科書・参考書 PT・OTゼロからの物理学(羊土社)
予習復習のアドバイス 高校の「物理基礎」や「物理Ⅰ」が基礎となります。最初からの積み重ねが大事なので、欠席のないようにお願いいたします。

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	1学年
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	スポーツ学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	齋藤 友規	実務経験			
講義目標	一般目標				
	①スポーツを「する」「知る」「支える」をテーマに、スポーツのチカラについて理解を深め、身体活動の意義や役割について学ぶ。				
	②健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を目指す。				
	③パラスポーツ体験やボランティア参加を通じて、将来の医療関係者として協力・支援ができる力を育む。				
講義目標	到達目標				
	①スポーツの意義や役割について様々な視点から理解を深める。				
	②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。				
	③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度や、協調性の育成を図る。				
回数	講義内容				
1	ガイダンス				
2	パラスポーツ体験実技①（ブラインドサッカー①）				
3	スポーツとの関わり方				
4	スポーツと安全管理、事故・傷害の予防				
5	パラスポーツの可能性				
6	パラスポーツ体験実技②（ブラインドサッカー②）				
7	スポーツ実技①（バレーボール）				
8	パラスポーツ現場体験③（宮城県・仙台市障害者スポーツ大会陸上競技大会ボランティア参加）				
9	スポーツと心理				
10	スポーツ・インテリジェンス（情報戦略）				
11	スポーツ実技②（バスケットボール）				
12	スポーツと栄養				
13	パラスポーツ体験実技③（ポッチャ）				
14	スポーツ実技③（フットサル）				
15	まとめ				
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法

講義の他、実技・実習も予定しています。講義内容を入れ替えることがあります。

講義で使用する機器・教材

パソコン・プロジェクター

履修上の注意事項

授業への取り組み姿勢や学習態度を重視します。

レポートの提出期限を遵守すること。

成績評価方法

レポート（70%）、課題・出席状況・授業態度等（30%）の総合的評価とします。☒

教科書・参考書

必要な資料は適宜、授業内で使用します。

予習復習のアドバイス

興味を持ったことや、質問事項等はまとめておくこと。

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	1年
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	BCT I	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年，作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	医療人として社会で働くために必要となるコンプライアンス，身だしなみ，健康管理，タスク管理，感情管理，連絡報告相談などについて知り，日々の学校生活で意識的に実施できる。				
	到達目標				
	医療における対人援助職の就くために必要なコンプライアンスや自己管理を学び、実習機会における現場経験に汎用することができる				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション 「OTを目指すあなたへ」				
2	コミュニケーションとは？コミュニケーションと学校ルールについて考えよう				
3	コミュニケーションとは？コミュニケーションとシラバスを考えよう（他者の意図を汲む作業）				
4	自律した自分になろう（自律するための自己管理とは？スケジュール管理や優先順位付けを考えよう）				
5	自律した自分になろう（自律を目指すこととメタ認知との関連は？）				
6	自分を理解することで他者を知ることを深めよう				
7	自分を理解することで他者を知ることを深めよう				
8	まとめ				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

講義方法

主に座学とグループワークで実施する

資料は基本紙で配布します，データでお渡しする場合にはTeamsにて配布します

講義で使用する機器・教材

パワーポイント，PC，プロジェクター

履修上の注意事項

・欠席した講義の資料は自分で教員まで取りに来る・友人にコピーさせてもらうなどして，必ず全ての資料をそろえるようにしてください。

・コミュニケーションに対する「指摘」は「これからなる医療職としてのコミュニケーションに不足していること」であり，みなさんを否定するものではありません，これから身に付けていきましょう。

成績評価方法

課題60%，試験40%で評定します

課題提出期限は厳守，理由なく遅れた場合は採点しません。遅れそう/遅れた場合には必ず相談下さい

教科書・参考書

PT・OTのための これ你放心 コミュニケーション実践ガイド 第2版/医学書院

予習復習のアドバイス

コミュニケーションが苦手な人は知識を得て冷静になれるように，得意な人は自分がいまっている

コミュニケーション技術に気づけるように，学問としてコミュニケーションを学ぶ姿勢で受講して下さい

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	2
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	Basic Communication Training II (BCT II)	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	酒井良隆	実務経験	医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務		
講義目標	一般目標 社会人としてのコミュニケーションの在り方について、理解できる				
	到達目標 社会人としての在り方を求められる、臨床実習の場において、適切なコミュニケーションを理解することができる				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション 1. 挨拶は自分から、2. 相手の領域に入るという事				
2	3. コミュニケーションスキルを学ぶ前に、4. 医療面接での対話の仕方				
3	5. 相手との関係を築く方法、6. 質問の仕方				
4	7. 相手を会話に乗せる方法、8. 話題の提供のしかた				
5	9. 相手から話を引き出す方法（聴く技術）、10. 話を上手に切り上げる方法				
6	11. 答えにくい質問に応じる方法、12. 否定的な話に対応する方法				
7	13. 認知症の方とのコミュニケーション、14. 患者さんの家族とのコミュニケーション				
8	15. スーパーバイザーとのコミュニケーション				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。グループ学習
講義で使用する機器・教材 PC、プロジェクター、iPad
履修上の注意事項 臨床実習ではもとより、資格取得後の人生で必要なスキルになります。身につけられるよう、日頃の取り組みが重要です。
成績評価方法 グループワーク(60%)、出席(40%)
教科書・参考書 PT・OTのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド 第2版 医学書院
予習復習のアドバイス 日頃の取り組みがないと身につかない。 学習した内容について、必ず「なぜ?」「どうして?」という探求心をもつてのぞむこと。

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	1
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	解剖学Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	狩野 充浩	実務経験	歯科医師		
講義目標	一般目標				
	学生がすべての臨床科目の基礎となる解剖学の中で内臓系と運動器系(骨、関節、筋)についての基本的な解剖学的構造、名称、機能について理解できること				
	到達目標				
主な内臓の構造と全身の骨の形態、関節の構造等について正しく解剖学的に理解ができること (重要な注意)授業の配布資料等がかなりの量になりますので、早いうちに各自で整理するファイルを用意した方が良いでしょう					
回数	講義内容				
1	体の区分け方向用語、名称（第1章、解剖学総論Ⅰ、Ⅱ）				
2	骨学、関節総論（第2章、骨格総論、関節靭帯総論）				
3	骨学各論（1.上肢）（第2章P68-） 細胞組織系（GW課題の内容）				
4	骨学各論（2.体幹）（第2章P58-）				
5	骨学各論（3.頭頸部）（第2章P46-）				
6	骨学各論（4.下肢）（第2章P78-）				
7	骨学各論（5.下肢）、関節1（頭部）（第2章P46-、第3章P113.114）				
8	関節各論（2.体幹、下肢）（第3章P114-、137-）				
9	関節各論（3. 下肢、上肢）（第3章P123-、137-）				
10	関節各論（4.上肢）（第3章P137-）				
11	内臓系（1.消化器）（第7章P370-）				
12	内臓系（消化器②、2.呼吸器）（第7章P370-、P360-）				
13	内臓系（呼吸器②、3.泌尿器）（第7章P360-、P384-）				
14	内臓系（4.男性生殖器）（第7章P384-）				
15	内臓系（男性生殖器②5.女性生殖器）（第7章P384-）				
16					
17					
18					
19					
20					

<p>講義方法 パワーポイントを使用した講義中心であるが、適宜課題や問題演習等も行う予定である (特に課題は真剣に取り組んで下さい。内容も重要なものです)</p>
<p>講義で使用する機器・教材 パワーポイント、配布印刷物、Terms使用予定</p>
<p>履修上の注意事項 授業中の私語、飲食およびスマホの使用は禁止である (専門科目の心得、(あくまでも1つのヒントです)) 1、該当項目の教科書を読んでくる 2、授業で理解に努める(実際にここで100%は無理です) 3、授業後に自分でもう1回重要事項を整理する 4、問題演習等で、きちんと出力できるようにする(これも1回ではなかなかできません)</p>
<p>成績評価方法 期末試験(100%)+(課題等加算予定あり)にて成績を評価する 授業態度、課題提出状況等も総合的に考慮される</p>
<p>教科書・参考書 PTOT標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(第5版) 日本人人体解剖学(第20版)</p>
<p>予習復習のアドバイス 解剖学の中でも特に運動器系では複雑な解剖学的名称がたくさん出てくるので、難しい名称に惑わされずきちんと予習、復習してうまく整理することがポイントです。臨床実習でも国試でも卒業後もずっと関わる最重要科目です。試験前の一夜漬けだけでは対応できません。</p>

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	後期	学年	1
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	解剖学Ⅲ（筋学）	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名		実務経験	歯科医師		
講義目標	一般目標				
	前期の解剖学Ⅰの講義の続き(筋学各論)を行ない、運動器系(筋)についての基本的な解剖学的構造、名称、機能について理解できるようにする				
	到達目標				
筋の解剖学的構造を理解することにより、作業療法士として臨床で必要な運動器系の解剖学的構造を理解できるようにする。他の触診実習等の科目と合わせて、理解を深めて下さい					
回数	講義内容				
1	筋学総論、筋学各論（1.体幹の筋）（第4章P164-、P184-）				
2	筋学各論（2.体幹の筋、頭頸部の筋1）（第4章P184-、P178-）				
3	筋学各論（3.頭頸部の筋2）（第4章P178-）				
4	筋学各論（4.下肢の筋1）（第4章P211-）				
5	筋学各論（5.下肢の筋2、上肢の筋1）（第4章P211-、P196-）				
6	筋学各論（6.上肢の筋2）（第4章P196-）				
7	筋学各論（7.上肢の筋3）、復習の問題演習（第4章P196-）				
8	復習の国試問題演習				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 パワーポイントを使用した講義中心であるが、適宜課題や問題演習等も行う予定である (特に課題は真剣に取り組んで下さい。内容も重要なものです)
講義で使用する機器・教材 パワーポイント、配布印刷物、Terms使用予定
履修上の注意事項 授業中の私語、飲食およびスマホの使用は禁止である（専門科目の心得、(あくまでも1つのヒントです)）1、該当項目の教科書を読んでくる 2、授業で理解に努める(実際にここで100%は無理です) 3、授業後に自分でもう1回重要事項を整理する 4、問題演習等で、きちんと出力できるようにする(これも1回ではなかなかできません)
成績評価方法 期末試験(100%)+(課題等加算予定あり)にて成績を評価する 授業態度、課題提出状況等も総合的に考慮される
教科書・参考書 PTOT標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(第5版) アトラスとテキスト人体解剖(原書 第6版)(南江堂)、日本人人体解剖学(第20版)
予習復習のアドバイス 解剖学の中でも特に運動器系では複雑な解剖学的名称がたくさん出てくるので、難しい名称に惑わされずきちんと予習、復習してうまく整理することがポイントです。臨床実習でも国試でも卒業後もずっと関わる最重要科目です。試験前の一夜漬けだけでは対応できません

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	後期	学年	1
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	触診技術実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	1
講師名	矢野大輔	実務経験	医療機関（病院）、介護施設（訪問看護、老健施設）に14年作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	解剖学や運動学の講義内容を踏まえて、対象者へ運動を処方するにあたり、その評価を行うための機能解剖学的触診法を身につける。				
	到達目標				
		触診を通して臨床に必要なランドマーク、体表の筋の立体構造を理解する。 学生同士においてではあるが触診方法を身につける。 課題演習を通して骨や筋の名称と部位を憶える。			
回数	講義内容				
1	オリエンテーション、肢位、運動の面と軸・方向、姿勢、触診方法、骨の基本構造				
2	骨・靭帯の触診①－肩甲骨、鎖骨				
3	骨・靭帯の触診②－肩甲骨、鎖骨				
4	骨・靭帯の触診③－上腕骨				
5	骨・靭帯の触診④－橈骨、尺骨				
6	骨・靭帯の触診⑤－橈骨、尺骨				
7	骨・靭帯の触診⑥－手根骨、指骨				
8	骨・靭帯の触診⑦－骨盤				
9	骨・靭帯の触診⑧－大腿骨 スカルパ三角				
10	骨・靭帯の触診⑨－膝関節周囲				
11	骨・靭帯の触診⑩－足部				
12	骨・靭帯の触診⑪－胸郭				
13	骨・靭帯の触診⑫－脊柱				
14	筋・神経・血管の触診①-肩甲上腕関節の筋				
15	筋・神経・血管の触診②-肩甲上腕関節の筋				
16	筋・神経・血管の触診③－肩甲胸郭関節の筋				
17	筋・神経・血管の触診④－肘関節の筋				
18	筋・神経・血管の触診⑤－手関節、手指の筋				
19	筋・神経・血管の触診⑥－手関節、手指の筋				
20	筋・神経・血管の触診⑦－股関節の筋				
21	筋・神経・血管の触診⑧－膝関節の筋				
22	筋・神経・血管の触診⑨－足関節の筋				
23	筋・神経・血管の触診⑩－足関節の筋				

<p>講義方法 実習着(ケーシー型白衣)を着用すること。 ジーンズやスカートなどの服装は不可(評定から減点とする)。 爪を必ず切っておくこと(伸びている場合は評定から減点とする)。</p>
<p>講義で使用する機器・教材 PC スクリーン プロジェクター 全身骨格模型 筋模型 プラットフォーム</p>
<p>履修上の注意事項 講義の開始前と終了後は必ず手洗いをすること プラットフォーム使用後は消毒液で拭くこと 課題は締切期限を厳守すること 提出が遅れる場合には連絡・報告・相談をすること</p>
<p>成績評価方法 実技課題15%、筆記課題70%、実習態度15%を総合的に判断して評価する。</p>
<p>教科書・参考書 運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版 上肢、下肢・体幹</p>
<p>予習復習のアドバイス 相互触診は模型などの位置関係と生体における位置関係をうまく修正するように意識すること 講義においては、適宜資料を配布するので、予習・復習に役立てること</p>

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	1
学科	理学療法科A	講義時間	時間割参照		
科目名	生理学Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	狩野 充浩	実務経験	歯科医師		
講義目標	一般目標				
	学生がすべての臨床科目の基礎になる生理学において人体の解剖学的構造と関連した生理学的機能についてきちんと関連づけて理解できるようにする				
	到達目標				
	からだの基本的な生理学的機能全般について理解することができるようにする (重要な注意)授業の配布資料等がかなりの量になりますので、早いうちに各自で整理するファイルを用意した方が良いです(問題演習にはIpad使用)				
回数	講義内容				
1	生理学の導入、細胞の働き (1章P1-)				
2	骨の生理学 (10章P163-)				
3	筋の生理学(1) (4章P37-)				
4	筋の生理学(2) (4章P37-)				
5	血液の生理学 (14章P235-)				
6	体液の生理学 (18章P321-)				
7	循環の生理学(1、心臓機能) (15章P249-261)				
8	循環の生理学(2、心臓機能) (15章P249-261)				
9	循環の生理学(3、血圧、血管機能) (15章P262-282)				
10	循環の生理学(4、血圧、血管機能) (15章P262-282)				
11	体温調節機能 (19章P331-)				
12	咀嚼、嚥下、消化、吸収(1) (13章P213-)				
13	咀嚼、嚥下、消化、吸収(2) (13章P213-)				
14	排尿、排泄 (17章P303-)				
15	免疫の仕組みと働き (14章P244-)				
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 パワーポイントを使用した講義中心であるが、各項目ごとに適宜問題演習を行う 解剖学同様、課題を出す予定です
講義で使用する機器・教材 パワーポイント、配布印刷物、Terms使用予定
履修上の注意事項 授業中の私語、飲食および携帯電話の使用は禁止である（専門科目の心得、(あくまでも1つのヒントです)）1、該当項目の教科書を読んでくる 2、授業で理解に努める(実際にここで100%は無理です) 3、授業後に自分でもう1回重要事項を整理する 4、問題演習等で、きちんと出力できるようにする(これも1回ではなかなかできません)
成績評価方法 期末試験(100%)+(課題等加算予定あり)にて成績を評価する 授業態度、課題提出状況等も総合的に考慮される
教科書・参考書 シンプル生理学改訂第8版(南江堂) やさしい生理学改訂第6版(南江堂)
予習復習のアドバイス <ul style="list-style-type: none"> ・解剖学的構造、生理学的機能は密接に関連する場合がありますので両者は関連づけて学習するようにしましょう。 ・基礎科目は試験前の一夜漬けではなく少しずつでも日々の予習、復習をしっかりと行ないましょう。

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	後期	学年	1
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	生理学Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	狩野 充浩	実務経験	歯科医師		
講義目標	一般目標				
	前期に引き続いて臨床科目の基礎になる生理学において人体の解剖学的構造と関連した生理学的機能について理解できるようにする				
	到達目標				
からだの基本的な生理学的機能全般について理解することができるようにする (重要な注意)授業の配布資料等がかなりの量になりますので、早いうちに各自で整理するファイルを用意した方が良いです(問題演習はIpad使用)					
回数	講義内容				
1	睡眠、感覚の生理学（1）（5章P59-、8章P125-128）				
2	感覚の生理学（2）（5章P59-）				
3	感覚の生理学（3）栄養と代謝（1）（5章P59-、11章P201-）				
4	栄養と代謝（2）（11章P201-）				
5	呼吸生理（15章P281-）				
6	生殖機能（10章P184-）				
7	神経の基本機能（1）（2章P13-）				
8	神経の基本機能（2）（2章P13-）				
9	内分泌系（1）（9章P139-）				
10	内分泌系（2）（9章P139-）				
11	神経系の機能（1）（4章P52-）				
12	神経系の機能（2）（6章P91-）				
13	神経系の機能（3）（8章P121-）				
14	神経系の機能（4）（8章P121-）				
15	神経系の機能（5）（7章P99-）				
16					
17					
18					
19					
20					

<p>講義方法 パワーポイントを使用した講義中心であるが、各項目ごとに適宜問題演習を行う 解剖学同様、課題を出す予定です</p>
<p>講義で使用する機器・教材 パワーポイント、配布印刷物、Terms使用予定</p>
<p>履修上の注意事項 授業中の私語、飲食およびスマホの使用は禁止である（専門科目の心得、(めくまじも1つのプリントです)）1、該当項目の教科書を読んでくる 2、授業で理解に努める(実際にここで100%は無理です) 3、授業後に自分でもう1回重要事項を整理する 4、問題演習等で、きちんと出力できるようにする(これも1回ではなかなかできません)</p>
<p>成績評価方法 期末試験(100%)+(課題等加算予定あり)にて成績を評価する 授業態度、課題提出状況等も総合的に考慮される</p>
<p>教科書・参考書 シンプル生理学改訂第8版(南江堂) やさしい生理学改訂第6版(南江堂)</p>
<p>予習復習のアドバイス ・解剖学的構造と生理学的機能は密接に関連する場合がありますので両者は関連づけて学習するようにしましょう。 ・基礎科目は試験前の一夜漬けではなく少しずつでも日々の予習、復習をしっかりと行ないましょう。</p>

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	2
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	生理学実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	1
講師名	狩野 充浩、高田 拓明、上遠野純子	実務経験	歯科医師、理学療法士、作業療法士		
講義目標	一般目標 学生が1年生での生理学の講義の内容をふまえて、実際に実習で生体反応等を見ることによって、生理学的な理解を深めることを目標とする				
	到達目標 各実習課題の内容について、実際に計測、データの解析、結果の考察等を行なうことによって、人体の生理学的な機能の理解と、問題解決能力を養うことができるようにする				
回数	講義内容				
1	課題1のデーター採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
2	課題1のデーター採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
3	課題1のデーター採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
4	課題2のデーター採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
5	課題2のデーター採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
6	課題2のデーター採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
7	課題3のデーター採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
8	課題3のデーター採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
9	課題3のデーター採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
10	課題4のデーター採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
11	課題4のデーター採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
12	課題4のデーター採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
13	課題5のデーター採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
14	課題5のデーター採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
15	課題5のデーター採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
16	実験⑤（運動学実習の続き）動作のスキルの検証（上遠野）				
17	感覚検査について（上遠野）				
18	演習（複合感覚検査）（上遠野）				
19	経皮的電気刺激装置を用いた治療のすすめ方（上遠野）				
20	体圧測定演習①（上遠野）				
21	体圧測定演習②（上遠野）				
22	まとめ				
23	まとめ				

講義方法

・各課題の内容に沿ってグループ毎に、データ採取、レポート作成、提出まで
を行って終了したものとする、Lab Station実習システムを使用する

講義で使用する機器・教材

・実習に使用する機材等はこちらで準備する、Lab Station実習システム以外に必要なものがあれば適宜指示する

履修上の注意事項

・実習に使用する機器類の取り扱いには細心の注意を払い、破損等がないようにすること
・各回のレポートは遅延、未提出が無いようにする事、実習の欠席は他のメンバーに迷惑がかかります

成績評価方法

・実習態度や課題提出状況、課題の内容等を加味して課題レポート点×0.7+出席点(無欠席で30点)で評価する(狩野分)
・最終的には両担当分評定は、コマ数割合に応じて合算予定

教科書・参考書

適宜紹介する

予習復習のアドバイス

・その日の実習課題に相当する部分はあらかじめ教科書等で予習する事
・実際に実習で使用する機器は、数が限られる場合があるのでうまく譲りあって使用する事
・機器類を使用する際は使用方法を考えて取り扱いに細心の注意を払い、破損や紛失が絶対に起こらないように気をつける事

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	通年	学年	1
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動学	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	矢野大輔	実務経験	医療機関（病院）に3年4か月、介護施設（訪問看護、老健施設）に10年8か月作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	人体の運動メカニズムをあらゆる観点から理解し、作業療法の基礎となる知識技術を習得する				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・各関節の特徴を解剖学的・運動学的視点で理解し、説明出来る ・運動学習やその効果を理解し、説明できる ・運動学の重要性を説明でき、姿勢・運動・動作を力学的視点で説明出来る 				
回数	講義内容				
1	・オリエンテーション ・運動学とは ・面と軸				
2	・関節運動表現				
3	・関節運動学 ・運動力学 ・凹凸の法則 ・生体力学的てこ				
4	・ニュートン運動法則 ・ベクトル ・トルク(力のモーメント)				
5	・姿勢、重心、支持基底面 ・力と速度、加速度、仕事				
6	・関節の構造と機能				
7	・骨格筋の構造と機能				
8	・肩複合体の構造と機能①				
9	・肩複合体の構造と機能②				
10	・肘・前腕複合体の構造と機能①				
11	・肘・前腕複合体の構造と機能②				
12	・手関節の構造と機能				
13	・手の構造と機能①				
14	・手の構造と機能②				
15	・脊柱の構造と機能①				
16	・脊柱の構造と機能②				
17	・脊柱の構造と機能③				

18	・股関節の構造と機能①
19	・股関節の構造と機能②
20	・膝関節の構造と機能①
21	・膝関節の構造と機能②
22	・足関節の構造と機能①
23	・足関節の構造と機能②
24	・寝返り～座位の姿勢と動作
25	・立ち上がり～立位の姿勢と動作
26	・歩行の基礎知識①
27	・歩行の基礎知識②
28	・歩行の基礎知識③
29	・咀嚼と換気のキネシオロジー
30	・運動学習
講義方法 基本的には座学の授業となります。 教科書と配布プリントを使用して進めますので配布資料はファイリングして講義に持参してください。	
講義で使用する機器・教材 PC プロジェクター 全身骨格模型 ホワイトボード	
履修上の注意事項 課題は締切厳守となります。遅れる場合には報告、相談をし理由を説明してください。	
成績評価方法 課題評定、試験(前期中間・期末、後期中間・期末)で評定します。試験毎に再試験を行います。 ※通年の科目であるので、前期・後期合算平均で、総合評定します。	
教科書・参考書 Paul Jackson Mansfield 筆「エッセンシャルキネシオロジー 原書第3版」 宮本省三 他 筆「人間の運動学」協同医書出版、Kirsten Gotz-Neumann 「観察による歩行分析」医学書院	
予習復習のアドバイス 自分でわからないことがあったら、そのままに放置せず、必ずわかるまで調べるか質問に来てください。 解剖学・生理学の基礎的な知識を踏まえての学習になりますので、復習を怠らず進めてください。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	2年
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動学実習	講義曜日	月	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	1
講師名	上遠野 純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	実習を通して、人の運動・動作の特徴とそれに伴う諸現象を理解する。運動と動作に関して、観察・測定・分析の初歩的手段を体験し、その結果をまとめることで臨床研究の方法を理解する				
	到達目標				
	実習を通して、人の運動・動作の特徴とそれに伴う諸現象を理解する。運動と動作に関して、観察・測定・分析の初歩的手段を体験し、その結果をまとめることで臨床研究の方法を理解する				
回数	講義内容				
1	運動学実習にあたって、レポートの作成の仕方 実験①肩関節の可動域計測とデータ解析				
2	実験② 筋力検査1（肢位と最大筋力）				
3	実験② 筋力検査2（標準テストと迅速テスト）				
4	実験①と②の検証				
5	実験① ②のフィードバック				
6	実験③ 機能的リーチテストと座位前方リーチの差異				
7	実験③の検証				
8	演習（血圧・心拍数の測定）				
9	実験③のフィードバック				
10	実験③のフィードバック 演習（血圧・心拍数の測定）のデータ整理				
11	運動負荷試験演習① マスター階段昇降検査				
12	運動負荷試験演習① マスター階段昇降検査				
13	運動負荷試験演習② 上肢運動負荷試験（重量負荷による）				
14	運動負荷試験演習② 上肢運動負荷試験（重量負荷による）				
15	運動負荷試験演習③ PCIテスト				
16	運動負荷試験の検証				
17	運動負荷試験のフィードバック				
18	運動負荷試験のフィードバック				
19	実験④ 反応時間測定				
20	実験④ 反応時間測定				
21	実験④の検証				
22	実験⑤ 動作のスキル				
23	実験⑤の検証				

講義方法 グループでの演習や2人1組になったの演習になります。ケーシー型白衣を着用下さい。 基本的には12階1207教室で演習を行います。適宜場所を変更しますので連絡事項を確認ください
講義で使用する機器・教材 IPadは必ず持参して下さい。また、実験に使用する教材は適宜指示します
履修上の注意事項 実験ごとにレポートを提出してもらいます。提出期限は指示します。提出日に遅れそうな場合はあらかじめ相談してください。
成績評価方法 個人レポート課題提出にて評定します。
教科書・参考書 解剖学・生理学・基礎検査測定演習、作業療法評価学、運動学の教科書を実験により使い分けます。
予習復習のアドバイス レポートの書き方や、実験方法等を開始前に説明しますが、後は自ら考え行動して下さい

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	1
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	人間発達（老年医学含む）	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	上遠野純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	人という存在に関して時間の中での変化を、生涯にわたる発達の視点をもって捉え、各時期の特徴をおさえつつ、個々人を理解し何が出来るか、その支援のあり方を考察で				
	到達目標				
	I. 人の発達とは、生涯発達の理論を理解し、環境の中での人の発達を、生得要因と環境要因双方から理解する。 II. 乳児期、幼児期、児童期における発達過程について理解する。①運動発達②認知発達③言語発達④社会性(対人関係)について説明できる。 III. 青年期、成人期、老年期における発達過程について理解する。①身体構造の変化②生理機能の変化③心理・社会的変化について説明できる。				
回数	講義内容				
1	人の発達とは 生涯発達の理論				
2	環境の中での人の発達 発達の原則、生得要因と環境要因				
3	心理的な発達を理解する 知能と認知の生涯発達				
4	心理的な発達を理解する 言語とコミュニケーションの生涯発達				
5	心理的な発達を理解する 情動の生涯発達				
6	心理的な発達を理解する 自己の生涯発達				
7	心理的な発達を理解する 人間関係、社会性の生涯発達				
8	乳児期の発達段階と発達課題				
9	幼児期の発達段階と発達課題				
10	児童期の発達段階と発達課題				
11	青年期の発達段階と発達課題				
12	成人期の発達段階と発達課題				
13	老年期の発達と成熟（老化とは）				
14	老年期の発達と成熟（老化が及ぼす心理的影響）				
15	老年期の発達と成熟（サクセスフル・エイジング）				
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 教科書ならびに資料を用いて行う。
講義で使用する機器・教材 PC.Ipad(資料はすべてデータ配布します)
履修上の注意事項
成績評価方法 試験・課題にて総合的に評価を行う
教科書・参考書 岩崎清隆 執筆 ”人間発達学”第2版 標準理学療法学・作業療法学 医学書院
予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	栄養学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笹山 由貴	実務経験	管理栄養士 教育機関で1年の実務経験有り		
講義目標	一般目標				
	栄養学の基礎を理解し、正しい知識を身に付ける。				
	到達目標				
		基本的な栄養・代謝について説明できる			
回数	講義内容				
1	オリエンテーション 元素～蛋白質				
2	アミノ酸、糖質				
3	脂質、酵素				
4	消化と吸収、ホルモン				
5	ビタミン				
6	エネルギー代謝				
7	運動と栄養				
8	期末試験				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

講義方法 パワーポイントと教科書で進める
講義で使用する機器・教材 スクリーン
履修上の注意事項 1/3以上欠席した場合は単位を修得することができないので留意のこと
成績評価方法 期末テスト100%
教科書・参考書 リハベーシック 生化学・栄養学
予習復習のアドバイス 予習 教科書を一通り目を通しておくこと 復習 授業終了後にワークを配信するので、ワークで復習する事。

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	1年
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	病理学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	
講師名	大沼英子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	疾患とその病因、病態生理について医療人としての知識を習得し、自らの専門とする分野の知識・技術を習得するための基礎を築く				
	到達目標				
	①各種疾病やその病因、病態生理に関心を持ち、一層の向学心を持つことができる ②各種疾病や病態生理、診断、治療の最低限の知識を想起できるようになる ③知識のみならず倫理観を持ち、病態に偏らない客観的で全人的な医療を行う姿勢を持つ				
回数	講義内容				
1	病気とは 病理学とは				
2	病因と病態①				
3	病因と病態②				
4	病因と病態③				
5	病因と病態④				
6	病因と病態⑤				
7	病因と病態⑥				
8	病因と病態⑦				
9					
10					
講義方法					
講義で使用する機器・教材					
履修上の注意事項					
成績評価方法					
教科書・参考書					
予習復習のアドバイス					

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度		時期	通年	学年	2年
学科	作業療法科/理学療法科		講義時間	時間割参照		
科目名	内科学		講義曜日	時間割参照	講義回数	15
			単位時間数	30	単位数	2
講師名	原田、木幡、堀田、川上、伊藤、大沼		実務経験	医師		
講義目標	一般目標					
	近年の超高齢社会において、リハビリテーション医療における対象疾患も高齢者の抱える内科疾患を理解し、診療に当たらねばならない。そのため、各疾患像を正しく理解し、臨床診療における対象者からの訴えに傾聴でき、医師と連携がスムーズに行えるような専門職となることを目標とする。					
	到達目標					
各疾患の症候と病態生理を理解し、診断・治療・予後の経過を正しく理解できる。日々の診療の中で、身近に接する対象者の症状から専門職としての対応を判断し、実施出来る。検査データが示す疾患の特性を認識する。						
回数	講義内容					
1	内科臨床とリハビリテーションとの関連性					
2	症候学					
3	循環器疾患					
4	循環器疾患					
5	代謝障害					
6	代謝障害					
7	血液・造血器疾患					
8	血液・造血器疾患					
9	腎機能疾患					
10	腎機能疾患					
11	内分泌疾患					
12	内分泌疾患					
13	呼吸器疾患					
14	呼吸器疾患					
15	感染症					
16						
17						
18						
19						
20						

講義方法 配布する資料を中心に、パワーポイントと板書によって講義を進める。
講義で使用する機器・教材 PC,Ipad
履修上の注意事項
成績評価方法 定期試験,出席率、授業態度から総合的に判断する。
教科書・参考書 標準理学療法・作業療法学専門基礎分野 内科学 第4版
予習復習のアドバイス 予習・復習を行うこと、わからないことは講義終了後質問を行い、理解を深めること。

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度		時期	通年	学年	2年
学科	作業療法科/理学療法科		講義時間	時間割参照		
科目名	整形外科学		講義曜日	時間割参照	講義回数	15
			単位時間数	30	単位数	2
講師名	羽鳥,鳥谷部、大井、本地,後藤、上遠野		実務経験	上遠野：医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標					
	整形外科疾患の各疾患像を正しく理解し、臨床診療における対象者からの訴えに傾聴でき、医師と連携がスムーズに行えるような専門職となることを目標とする。					
	到達目標					
	運動器の知識が理解できる。、運動器疾患におけるADL障害を理解できる。最新の手術法や治療法について理解できる。					
回数	講義内容					
1	整形外科基礎知識					
2	運動器評価および検査法①					
3	運動器評価および検査法②					
4	整形外科的治療法①					
5	整形外科的治療法②					
6	骨軟部腫瘍①					
7	骨軟部腫瘍②					
8	末梢神経における外傷疾患①					
9	末梢神経における外傷疾患②					
10	脊髄損傷①					
11	脊髄損傷②					
12	先天性骨関節疾患①					
13	先天性骨関節疾患②					
14	腱靭帯における外傷疾患・スポーツ外傷					
15	関節における外傷疾患					
16						
17						
18						
19						
20						

講義方法 配布する資料を中心に、パワーポイントと板書によって講義を進める。
講義で使用する機器・教材
履修上の注意事項
成績評価方法 定期試験,課題等で総合評定する
教科書・参考書 医学書院 標準整形外科学第14版
予習復習のアドバイス 予習・復習を行うこと、わからないことは講義終了後質問を行い、理解を深めること。

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	通年	学年	2年
学科	作業療法科/理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	小児科学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	大沼 晃、奈良 隆寛、田中総一郎、今野、高橋	実務経験	医師/作業療法士		
講義目標	一般目標				
	<p>リハビリテーション医療における小児疾患事例の対象者は、以前は先天性疾患や脳性麻痺などの神経疾患が主であり、関節拘縮や筋力低下などによる四肢運動器への関わりが中心であった。最近においては、小児腫瘍性疾患や極低出生体重の事例など心肺機能が未熟な状態のケースへの関わりも増え、よりハイリスクな事例も増えてきている。小児疾患の事例に関わる際には、常に発達ということを意識して臨まねばならず、また母親やとりまく家族への支援も視野に臨むため、適切な対応が行えるよう小児疾患の特徴を理解する。</p>				
講義目標	到達目標				
	<p>リハビリテーション医療における小児疾患事例の対象者は、以前は先天性疾患や脳性麻痺などの神経疾患が主であり、関節拘縮や筋力低下などによる四肢運動器への関わりが中心であった。最近においては、小児腫瘍性疾患や極低出生体重の事例など心肺機能が未熟な状態のケースへの関わりも増え、よりハイリスクな事例も増えてきている。小児疾患の事例に関わる際には、常に発達ということを意識して臨まねばならず、また母親やとりまく家族への支援も視野に臨むため、適切な対応が行えるよう小児疾患の特徴を理解する。</p>				
回数	講義内容				
1	小児疾患の診断と治療の概要①				
2	小児疾患の診断と治療の概要②				
3	正常と異常の診方（特に乳幼児期）				
4	先天異常と周産期異常、遺伝病について				
5	未熟児医療について①				
6	未熟児医療について②				
7	腫瘍性疾患・ターミナル・ケア①				
8	腫瘍性疾患・ターミナル・ケア②				
9	発達障害について①				
10	発達障害について②				
11	障害児医療の今後①・いのちの授業について				
12	障害児医療の今後②・いのちの授業について				
13	発達障害領域の支援について①				
14	発達障害領域の支援について②				
15	発達障害領域の支援について③				
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 配布する資料を中心に、パワーポイントと板書によって講義を進める。
講義で使用する機器・教材 PC,Ipad
履修上の注意事項
成績評価方法 定期試験100%、欠席・授業態度は減点とする。
教科書・参考書 特に指定しない
予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	精神医学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	酒井良隆、藤井昌彦	実務経験	酒井：医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務		
講義目標	一般目標				
	精神科医療において関わる症例の疾患構造について理解する。また各疾患の治療法について概略を理解する。				
	到達目標				
	精神医学の学習を通じて、人の心身の健康状態のあり方を認識出来、また精神疾患の症候とその治療について正しく理解して、理学療法士・作業療法士としてリハビリテーションを行う際に系統立てて考えられるようになる。				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション				
2	統合失調症①				
3	統合失調症②				
4	気分（感情）障害①				
5	気分（感情）障害②				
6	てんかん				
7	依存症関連①				
8	依存症関連②				
9	神経症性障害①				
10	神経症性障害②				
11	摂食障害				
12	パーソナリティ障害①				
13	パーソナリティ障害②				
14	認知症の診断と治療①（藤井）				
15	認知症の診断と治療②（藤井）				
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 座学形式が中心である。
講義で使用する機器・教材 PC、プロジェクター、iPad
履修上の注意事項 予習・復習を行うこと、わからないことは講義終了後質問を行い、理解を深めること。
成績評価方法 期末考査(80%)、出席率(20%)で評定する。
教科書・参考書 標準理学療法・作業療法学専門基礎分野 精神医学 第4版 増補版
予習復習のアドバイス 見たことも、聞いたこともないことについて学ぶため、イメージが付きにくい。 映像資料などを通して、イメージに役立てるように努めるので、学生の皆さんは見聞きしたことに疑問を持ってください。

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度		時期	通年	学年	2年
学科	作業療法科/理学療法科		講義時間	時間割参照		
科目名	リハビリテーション医学		講義曜日	時間割参照	講義回数	15
			単位時間数	30	単位数	2
講師名	佐直、上遠野、本地、原田、渡邊、小笠原		実務経験	医師/作業療法士		
講義目標	一般目標					
	21世紀のリハビリテーション医療は障害者の2次の合併症の予防と健康増進である。本講では、総論として疾病治療とリハビリテーション医療の特性、診断と機能評価のとして廃用症候群、排尿障害、褥瘡、摂食・嚥下障害を扱う。各論では、リハビリテーション医療の主な対象、対象疾患について、国際生活機能分類ICFの生活機能とその障害の側面から学修する。					
	到達目標					
	医学的リハビリテーションの基本が理解できる。生活機能の測定、評価について説明できる。医学的リハビリテーションの対象疾患の障害(生活機能の負の面)と介入が理解できる。					
回数	講義内容					
1	リハビリテーション医学とは					
2	診断と機能評価総論総論					
3	疾病治療とリハビリテーション医療					
4	廃用症候群					
5	フィットネスと内部障害のリハビリテーション①					
6	フィットネスと内部障害のリハビリテーション②					
7	脳血管疾患のリハビリテーション①					
8	脳血管疾患のリハビリテーション②					
9	切断と義肢①					
10	切断と義肢②					
11	RAのリハビリテーション①					
12	RAのリハビリテーション②					
13	整形疾患のリハビリテーション①					
14	整形疾患のリハビリテーション②					
15	整形疾患のリハビリテーション③					
16						
17						
18						
19						
20						

講義方法 座学を中心に実施する、資料を配布する
講義で使用する機器・教材 PC、Ipad
履修上の注意事項
成績評価方法 定期試験100%、欠席・授業態度は減点とする。
教科書・参考書 特に指定しない
予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	通年	学 年	3年
学 科	理学療法科・作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	薬理学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	矢野梨恵	実務経験	病院、薬局勤務約20年		
講義目標	一般目標				
	薬物の作用機序や投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解した上で、対象疾患に関連した薬物療法の考え方について学ぶ。薬物の副作用や有害事象についても学ぶ。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物の基本事項について理解する ・対象疾患に対する薬物療法について理解する ・薬物の副作用と有害事象について理解する 				
回数	講義内容				
1	なぜ薬理学を学ぶのか、リハビリテーションに活かす薬理学				
2	薬が疾患治療に使えるのはなぜか				
3	薬の歴史、受容体、薬の分類について学ぶ				
4	薬の概念と分類				
5	薬の作用に影響する因子（作用、副作用、有害反応）				
6	生体内での薬の働き（薬物血中濃度、ADME）				
7	薬の作用に影響する因子（薬の効きやすさ、加齢の影響、相互作用）				
8	薬の使い方（剤型、投与計画、リスクマネジメント、薬物依存）				
9	感染・炎症の制御と薬物療法				
10	神経疾患の薬物療法				
11	精神疾患の薬物療法				
12	循環器系疾患の薬物療法				
13	疼痛の制御と薬物療法				
14	注意すべき頻用される薬物（代謝性疾患治療薬・催眠薬）				
15	過去の国家試験問題演習、注意すべき疾患と薬物療法				
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 座学中心です。 教科書と配布プリントを使用します。配布資料はファイリングして講義に持参してください。
講義で使用する機器・教材 機材…パソコン・スライド
履修上の注意事項 教科書を忘れると課題が解けないので、忘れた場合は教員室に相談しましょう。
成績評価方法 出席・課題(20%)試験(80%)
教科書・参考書 リハベシク 薬理学・臨床薬理学 内山靖・藤井浩美・立石雅子 編 リハに役立つ治療薬の知識とリスク管理 宮越浩一 編
予習復習のアドバイス 生理学・解剖学などの基礎科目と、内科学をはじめとする疾患に関する基礎知識が基本となるので、国家試験勉強を兼ねて復習しておくことを勧めます。

講義方法 パワーポイントを中心に講義を進める
講義で使用する機器・教材
履修上の注意事項
成績評価方法 出席率、授業中質問への回答、授業終了時の簡単なペーパーテストで評価する。
教科書・参考書 教科書:OT・PT基礎から学ぶ画像の読み方(医歯薬出版株式会社)
予習復習のアドバイス わからないときは、授業終了後の質問で理解を深めること。復習すること。

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	通年	学 年	3学年
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	予防医学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	中谷 久美	実務経験			
講義目標	一般目標				
	公衆衛生学について理解し、人の健康や病気の成り立ちについて考察する能力を醸成する。健康に関連する資料や統計の活用方法について理解する。病気の一次予防、二次予防、三次予防、特にリハビリテーションの役割について理解する。				
	到達目標				
	①公衆衛生学の基本的事項について説明できる。②保健統計の読み取り、活用ができる。③病気の一次予防、二次予防、三次予防、リハビリテーションの役割について説明できる。				
回数	講義内容				
1	公衆衛生学序論（生命倫理を含む）				
2	保健統計（医療統計学を含む）				
3	疫学（根拠に基づいた医療）				
4	年齢調整死亡率、感度、特異度、ROC曲線				
5	疾病と予防管理（生活環境、ライフスタイル）				
6	主な疾病（感染症、循環器疾患）				
7	主な疾病（がん、メタボリック症候群、自殺、自然災害）				
8	試験と解説				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 スライドおよびプリントを用いた対面講義形式
講義で使用する機器・教材 シンプル衛生・公衆衛生学2024
履修上の注意事項
成績評価方法 試験成績100%とする。
教科書・参考書 シンプル衛生・公衆衛生学2024
予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	1年
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	リハビリテーション概論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年, 福祉機関（通所介護）7年, 作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	リハビリテーションを正しく理解する。正しい知識を持ち医療・保険・福祉領域の現状を把握する。各専門職の役割・業務内容を知る。				
	到達目標				
	学生がリハビリテーションの理念を理解できる。 学生がリハビリテーションを構成している諸領域や役割を理解している。 学生がICFの概念を理解できる。				
回数	講義内容				
1	リハビリテーションの定義・歴史 理学療法士および作業療法士法				
2	リハビリテーション介入の流れ ～病気と障害 / 急性期・回復期・維持期～				
3	リハビリテーション関連職種とその役割 チームアプローチ・リハ手段				
4	評価会議とゴール設定 ①				
5	評価会議とゴール設定 ②				
6	国際疾病分類（ICD）				
7	国際生活機能分類（ICF） ①				
8	国際生活機能分類（ICF） ②				
9	ノーマライゼーション バリアフリー, QOL				
10	クリニカルパス				
11	障害受容 ① ～分類～				
12	社会参加を支える制度 ① ～障害者基本法～				
13	参加制約へのアプローチ ～家族と家庭～				
14	総合リハビリテーション				
15	リハビリテーション諸相 ～医学的・教育的・職業的・社会的・地域～				
16					
17					
18					
19					
20					

<p>講義方法 講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。 グループ学習</p>
<p>講義で使用する機器・教材 パソコン、プロジェクター</p>
<p>履修上の注意事項 教科書を持参する。 資料を管理する(ファイリングをする) グループ学習において、積極的に意見交換をする。</p>
<p>成績評価方法 試験(100%)で成績を評価する。 また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評定できない。 授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。(評定に含めます。)</p>
<p>教科書・参考書 リハビリテーション概論のいろは (入門リハビリテーション概論 第7版増補) (「よくわかるリハビリテーション」)</p>
<p>予習復習のアドバイス 教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。 講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。</p>

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	通年	学年	3
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	関連職種連携論Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	リハビリテーション医療に関わる多くの職種の中で、作業療法士としての自身のキャリアを生かしてどのように働き、求められる人材となるかを学ぶ。セルフマネジメントの仕方を学習し、自身のキャリア形成を行えるようにする。				
	到達目標				
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法士としての役割を全うする(Role Contribution) 2. 関係性に働きかける(Facilitation Relationship) 3. 作業療法士としての自職種を省みる(Reflection) 4. 関連する他職種を理解する(Understanding for Others) 				
回数	講義内容				
1	オリエンテーションセルフマネジメント～ライフプランニング①				
2	セルフマネジメント～ライフプランニング②				
3	セルフマネジメント～キャリアアップについて				
4	セルフマネジメント～キャリアアップについて				
5	セルフマネジメント～キャリアアップについて				
6	他学科・多職種PBL				
7	他学科・多職種PBL				
8	他学科・多職種PBL				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法

座学、演習(グループワーク)を行います。
2年次の「関連職種連携論Ⅰ」の資料を適宜使用します。また、資料を配布します。

講義で使用する機器・教材

資料はデータ配布をします。Ipadをご持参ください。

履修上の注意事項**成績評価方法**

課題・授業態度・出席点で評価します

教科書・参考書

特に使用しない。参考図書は講義の際に、紹介します。

予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	3
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	Practical Communication Training II	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	酒井良隆、田邊 裕靖	実務経験	医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務		
講義目標	一般目標				
	臨床における対象者の目標を達成するために、対象者自身や家族、他職種とのより良い関係を保つ必要性を知り、その方法を修得する。積極的に対象者や家族、他職種と関わることで、信頼関係を気付くことの意味を理解する。				
講義目標	到達目標				
	対象者やその家族、他職種とのコミュニケーション技術を習得する。自身の強みを理解し、能動的な行動を習慣化出来るようにする。自身の行動計画を立てることが出来る。				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション キャリアと選択 自身のキャリア（将来の生き方）を考える				
2	キャリアと選択 自身のキャリア（将来の生き方）を考える				
3	キャリアと選択 自身のキャリア（将来の生き方）を考える				
4	アントレプレナーシップを理解する				
5	行動計画を立てる				
6	振り返り				
7	振り返り				
8	振り返り				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 座学、演習を組み合わせで行う。
講義で使用する機器・教材 PC、プロジェクター、iPad
履修上の注意事項 作業療法士以外の職業について触れることで、自身の職業観の幅を拡大する。 医療福祉のみでは、対象者の生活を支援できない事実に向き合い、有効的で具体的な支援策を誰と協働するか、自身の人生観からどのようなキャリアを歩んでいくか、考える機会とする。
成績評価方法 授業態度、課題への取り組み状況、その成果発表などを通して総合的に評価する
教科書・参考書 特に使用しないが、適宜資料等を配布する。参考書として、PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド第2版を使用する。
予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	1
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	作業療法概論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	上遠野純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	作業療法実践を知ることの中で、生活と作業との関係や作業療法士の役割を理解する。				
	到達目標				
		領域別・病期別の作業療法過程を学び、リハビリテーションにおける作業療法の位置づけを理解する。 職業人として職業倫理を高める。			
回数	講義内容				
1	オリエンテーション 作業療法についての「作業」の意味				
2	作業療法とは（目的・対象・治療手段）				
3	生活と作業①（ライフサイクルと環境）				
4	生活と作業②（健康とは）				
5	作業療法の歴史（日本の作業療法の歴史、現状と課題）				
6	作業療法の実際（医療領域～急性期）				
7	作業療法の実際（医療領域～回復期）				
8	作業療法の実際（福祉領域）				
9	作業療法の実際（教育支援領域）				
10	作業療法の実際（生活期～終末期）				
11	作業療法の実際（精神科領域）				
12	作業療法部門の管理運営、関連法規				
13	職業人としての倫理（職能組織としての活動：生涯教育）				
14	多職種連携によるチームアプローチ				
15	作業の治療的意味、作業療法理論				
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料を配布する。
講義で使用する機器・教材 PC、プロジェクター
履修上の注意事項
成績評価方法 学期末試験(70%)や出席率(20%)と併せて、課題(10%)によって成績を評価する また適宜レポート作成を行い、評定のための資料とする
教科書・参考書 標準作業療法学 作業療法学概論 医学書院
予習復習のアドバイス 事前に教科書を読んで、予習をすること。

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	後期	学年	1年
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	作業療法理論	講義曜日		講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野 純子	実務経験	医療機関(リハ専門病院・大学病院) 20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	作業療法の専門性を改めて見出すために開発された各種作業療法理論モデル、ツールの位置づけを理解した上で、その実践的応用を学ぶ				
	到達目標				
	作業療法の専門性を改めて見出すために開発された各種作業療法理論モデル、ツールの位置づけを理解した上で、その実践的応用を学ぶ				
回数	講義内容				
1	作業療法の基本原理と目的 作業療法における理論とは何か				
2	MTDLP				
3	COPM				
4	生体力学・運動制御的アプローチ				
5	感覚統合				
6	発達理論				
7	代償的補装具的アプローチ				
8	集団理論的（対人間関係技術）アプローチ				
9					
10					
講義方法 パワーポイント等で資料配布します					
講義で使用する機器・教材					
履修上の注意事項					
成績評価方法 課題ならびに出席点、授業態度等で総合評定を行う					
教科書・参考書 教科書は特に使用しません。 参考書: 作業で語る事例報告作業療法レジメの書きかた・考え方第2版(医学書院)					
予習復習のアドバイス					

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	作業療法	講義時間	時間割参照		
科目名	基礎作業学概論	講義曜日	時間割参照	講義回数	8回（7.5コマ）
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年, 介護施設2年, 訪問地域作業療法領域10年, 作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	人の暮らしの中にある作業とは何かを定義と分類に沿って説明することができ, 何故作業療法が作業を取り扱うのかを解釈する. 作業を分析する枠組みについて説明することができる.				
	到達目標				
	対象者における作業の意味付けを理解し, その理由を説明することが出来ることで, 対象者に適用する作業処方を検討することが出来る(又は説明されると理解することが出来る)				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション：人間と作業（P4～9） 作業とは？を考え理解を深めます				
2	作業の種類と分類、作業の意味・形態・機能について（P19～22）				
3	作業と道具・環境、個人因子について それぞれの関連性を考え理解します				
4	作業の実践または紹介				
5	ライフステージと作業のつながり				
6	作業分析（運動機能の分析）				
7	作業分析（心理機能の分析）				
8	作業をとらえる枠組み、工程分析・包括的作業分析				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

講義方法 主に座学講義・グループワークにて実施する.
講義で使用する機器・教材 PC、プロジェクター
履修上の注意事項 話している内容をメモするように心がけて受講してください. 聞き洩らしたことや書ききれなかったことは必ず後に確認をしてください.
成績評価方法 課題50%, 期末試験50%にて評定
教科書・参考書 基礎作業学 第3版/医学書院
予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度（令和6年度）	時期	通年	学年	2
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	基礎作業学実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	1
講師名	酒井 良隆、 佐藤 秀美	実務経験	【酒井】医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務 【佐藤】医療機関に作業療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標				
	主要な作業の作業分析、活動分析、作業遂行分析が行える				
	到達目標				
	* 主要な作業についての手順が説明できる * 作業療法で利用される作業活動を体験し、特性や人・環境との影響も説明できる				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション 科目で学ぶこと				
2	オリエンテーション 科目で学ぶこと				
3	〈Leisure1〉 革細工①キーホルダー				
4	〈Leisure1〉 革細工②キーホルダー				
5	〈Leisure2〉 紙細工① ちぎり絵				
6	〈Leisure2〉 紙細工② ちぎり絵				
7	〈Leisure2〉 紙細工③ ちぎり絵				
8	〈ADL1〉 更衣① 上衣				
9	〈ADL1〉 更衣② 下衣				
10	〈ADL2〉 食事① 箸・フォーク・スプーンでの動作の違い				
11	〈ADL2〉 食事② 食形態による動作の違い				
12	〈ADL3〉 起居動作① 寝返り～起き上がり～座位				
13	〈ADL3〉 起居動作② 立ち上がり～立位～歩行				
14	〈Leisure3〉 散歩① 計画立案				
15	〈Leisure3〉 散歩② 計画実施				
16	〈Leisure3〉 散歩③ 計画実施・振り返り				
17	〈Work1〉 職業調べ① 発表				
18	〈Work2〉 職業調べ② 発表				
19	〈ADL4〉 トイレ① 洋式トイレ				
20	〈ADL4〉 トイレ② 福祉用具				
21	〈Work2〉 調理① 計画立案				
22	〈Work2〉 調理② 計画実施				
23	〈Work2〉 調理③ 計画実施・分析				

講義方法 実技と講義形式を混合に行います
講義で使用する機器・教材 それぞれの作業活動に必要な道具は異なります。 プロジェクター、配布資料、データ資料 毎回iPadは使用します。
履修上の注意事項 全てグループワークで行います。個人の都合に伴うグループへの影響は、グループ内で調整できるようにしてください。
成績評価方法 作業課題と分析(100%)・授業態度(減点方式)にて評価する。また、出席時数が授業時数の2/3に達しない場合、成績評価できない。
教科書・参考書 標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版 医学書院
予習復習のアドバイス 配布資料は必ずファイリングすること。適宜グループのメンバーと意見交換をすること。

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	1
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	作業療法特論Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	矢野大輔、淀川裕美	実務経験	矢野大輔：医療機関（病院）、介護施設（訪問看護、老健施設）に14年、作業療法士として勤務 淀川裕美：医療機関（病院）、介護施設、訪問地域作業療法領域に15年、作業療法士とし		
講義目標	一般目標				
	解剖学、生理学の基礎科目について、理解度の補強を図る 国家試験の概要を理解することから、現在の学習内容の必要性を理解する				
	到達目標				
	自身の学習方法と学習習慣を確立することができる 年度末の医歯薬基礎三科目模試で35点以上をとる				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション/①細胞・発生				
2	②骨格系				
3	小テスト1回目 / 復習				
4	③筋系（追加資料：筋張力）				
5	小テスト2回目 / 復習				
6	④体液・血液				
7	小テスト3回目 / 復習				
8	⑤循環器				
9	小テスト / 復習				
10	⑥呼吸・泌尿器系				
11	小テスト4回目 / 復習				
12	⑦消化器				
13	小テスト5回目 復習				
14	⑧生殖器・免疫・体温				
15	小テスト6回目 / 復習				

講義方法 ・解剖学、生理学の講義の進捗に合わせて勉強範囲を提示します。 ・小テストを実施し学習状況のチェックを行い、学習の習慣化を図ります。
講義で使用する機器・教材 PC プロジェクター
履修上の注意事項 ・学習方法の確立を目指して、様々な方法を試してください。自分に最も合っている方法を見つけましょう ・「勉強することは、特別な事」から「当たり前の事」へ脱却を図りましょう。
成績評価方法 小テストの平均点数(%),授業態度,出席の総合評価で評定します
教科書・参考書 解いてわかる解剖生理学 問題集 医学教育出版 参考資料は適宜配布致します
予習復習のアドバイス 基礎となる解剖学、生理学が理解されることで、2年次の専門科目の理解に繋がります 範囲が広いのでペース配分を考えて計画的に取り組みましょう

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	通年	学年	2
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	作業療法特論Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	酒井 良隆、上遠野 純子	実務経験	【酒井】医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務 【上遠野】医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	基礎3科目の得点力を向上させる 基礎3科目の国家試験過去問題に多く触れ、苦手分野を認識し克服する				
	到達目標				
		基礎3科目模試(学内)で最低35点以上 一年次の点数より5点upする			
回数	講義内容				
1	オリエンテーション、参考書の種類と特徴について				
2	問題に挑戦				
3	知識共有グループワーク				
4	知識共有グループワーク				
5	入れ替え戦				
6	知識共有グループワーク				
7	知識共有グループワーク				
8	問題に挑戦				
9	知識共有グループワーク				
10	知識共有グループワーク				
11	入れ替え戦				
12	知識共有グループワーク				
13	知識共有グループワーク				
14	知識共有グループワーク				
15	期末試験				
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 グループワーク、個人学習
講義で使用する機器・教材 PC、プロジェクター、iPad
履修上の注意事項 講義内ではアウトプットとグループワークが中心になります。インプットは家庭学習に行い、次回のグループワークアウトプットイベントに備えてください。 アウトプットイベントの結果はクラス全体で共有します。
成績評価方法 受講態度・グループワークへの取り組み(20%)、入れ替え戦成績(30%)、期末試験成績(50%)
教科書・参考書 解剖学、生理学、運動学で使用した教科書 国家試験参考書、1年次にHRで使用した資料
予習復習のアドバイス 日々の積み重ねが大切です。すぐに結果がでなくとも焦らずに取り組み続けてください。 基礎3科目の得点は35点/50問が国家試験合格のボーダーラインです。年間通して取り組み、忘却しないよう努めてください。最終的に笑うためには「やり続ける」ことが必須条件です。

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	通 年	学 年	3年
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	作業療法特論Ⅲ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年, 福祉機関（通所介護）7年, 作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	第59回作業療法国家試験に合格できる知識を身に着ける。				
	到達目標				
学生が国家試験に向けた学習を早期に身に着けられる。 学生が8月までに学内模試で120点をとる。 学生が12月までに学内模試で140点をとる。					
回数	講義内容				
1	国家試験オリエンテーション				
2	昨年度の実施状況説明				
3	学内模試①				
4	振り返りとグループワーク				
5	学内模試②				
6	振り返りとグループワーク				
7	学内模試③				
8	振り返りとグループワーク				
9	医歯薬模試①（8月）				
10	振り返りとグループワーク				
11	学内模試④				
12	振り返りとグループワーク				
13	三輪模試（秋）				
14	振り返りとグループワーク				
15	学内模試⑤（11月末 最終試験）				
16					
17					
18					
19					
20					

<p>講義方法 計画的に国家試験合格に向けた模試を実施する。実施後、振り返りを行い知識の点検・更新を行う。 個人学習, グループ学習, 課題学習 学内模試、外部模試についての点数開示と指導</p>
<p>講義で使用する機器・教材 パソコン, プロジェクター</p>
<p>履修上の注意事項 模試を受験する構え育む 模試に必要な物品を準備する 2時間40分、集中して問題を解く</p>
<p>成績評価方法 医歯薬①で120点, 学内模試⑤(最終試験)で140点をとる。2つの試験(目標値)で成績を評価する。 また, 出席時数が授業時数の2/3に達しないものは, 評定できない。 授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。(評定に含めます。)</p>
<p>教科書・参考書 1~3年で使用した全ての教科書 (個人の参考書)</p>
<p>予習復習のアドバイス 目標値が取れる学習を計画的に行う。(教員による面談有) 知識強化に向けて, 疑問, 質問に関しては放置することなく迅速に対応する。 実習期間も継続的に学習する</p>

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	前期	学 年	2年
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	管理学Ⅰ リスク管理・職業倫理	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年， 福祉機関（通所介護）7年， 作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	医療安全のマネジメントを理解する。 作業療法の役割と職域，職業倫理を理解できる。				
	到達目標				
	学生が診療情報の役割と記録の基本原則が理解できる。 学生がアクシデント，インシデント，医療過誤，ヒューマンエラーを理解できる。 学生が作業療法の役割と職域，職業倫理を理解できる				
回数	講義内容				
1	作業療法で取り扱う情報マネジメント				
2	医療安全マネジメント				
3	作業療法業務のマネジメント①				
4	作業療法業務のマネジメント②				
5	作業療法の役割と職域①				
6	作業療法の役割と職域②				
7	作業療法士の職業倫理①				
8	作業療法士の職業倫理②				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。 グループ学習
講義で使用する機器・教材 パソコン、プロジェクター
履修上の注意事項 教科書を持参する。 グループ学習において、積極的に意見交換をする。
成績評価方法 試験（100%）で成績を評価する。 また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評定できない。 授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）
教科書・参考書 作業療法管理学入門 第2版
予習復習のアドバイス 教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。 講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	前期	学 年	3年
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	管理学Ⅱ 職業管理	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年， 福祉機関（通所介護）7年， 作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	作業療法におけるサービスマネジメントの特徴を理解する。 作業療法の役割と職域，諸制度を理解する。				
	到達目標				
学生が作業療法の業務マネジメントを理解できる。(人・物・経済) 学生が作業療法部門の管理業務が理解できる。(人材育成も含む) 学生が作業療法士のキャリア開発について考えられる。					
回数	講義内容				
1	組織の成り立ちとマネジメント				
2	医療サービスマネジメント				
3	作業療法業務のマネジメント① 人・物・経済のマネジメント				
4	作業療法業務のマネジメント② 人・物・経済のマネジメント				
5	作業療法業務のマネジメント③ 人・物・経済のマネジメント				
6	作業療法業務のマネジメント 実践からの学び				
7	作業療法を取り巻く諸制度				
8	作業療法士のキャリア開発				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

<p>講義方法 講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。 グループ学習</p>
<p>講義で使用する機器・教材 パソコン、プロジェクター</p>
<p>履修上の注意事項 教科書を持参する。 グループ学習において、積極的に意見交換をする。</p>
<p>成績評価方法 試験（80%）、課題（20%）で成績を評価する。 また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評定できない。 授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）</p>
<p>教科書・参考書 作業療法管理学入門 第2版 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版</p>
<p>予習復習のアドバイス 教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。 講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。</p>

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	後期	学年	1
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	基礎検査測定実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	1
講師名	矢野大輔、藤井貴	実務経験	藤井：医療機関、介護施設に14年 矢野：医療機関、介護施設に14年		
講義目標	一般目標				
	作業療法分野における測定・評価方法（形態測定・感覚・深部健反射・上肢機能検査・ROM・MMT・バランス評価・協調性検査）を正しく理解する				
	到達目標				
	①対象者へのプログラム立案および目標設定の際の重要な情報の一つとして認識する ②対象者の身体状況を可能な限り客観的に抽出し、的確に測定・評価を行い、臨床実習および治療にいかせる知識を修得する				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション / バイタル測定				
2	形態測定（四肢長・周径） 講義・実技				
3	反射検査（深部反射・表在反射・病的反射）①講義				
4	反射検査（深部反射・表在反射・病的反射）②実技				
5	ROM測定①講義・実技 / 総論・上肢（肩関節）				
6	ROM測定②講義・実技 / 上肢（肩関節・肘関節）				
7	ROM測定③講義・実技 / 上肢（前腕・手関節）				
8	ROM測定④講義・実技 / 下肢（股関節）				
9	ROM測定⑤講義・実技 / 下肢（股関節・膝関節）				
10	ROM測定⑥講義・実技 / 下肢（膝関節・足関節）				
11	協調性検査①講義 / 上肢・下肢				
12	協調性検査講②実技 / 上肢・下肢				
13	感覚検査①講義 / 表在・深部				
14	感覚検査②実技 / 表在・深部				
15	MMT測定①講義・実技 / 総論・肩関節				
16	MMT測定②講義・実技 / 肩関節・肘関節				
17	MMT測定③講義・実技 / 肘関節・前腕・手関節				
18	MMT測定④講義・実技 / 股関節				
19	MMT測定⑤講義・実技 / 膝関節				
20	MMT測定⑥講義・実技 / 足関節				
21	バランス検査①講義 / 立ち直り・平衡反応				
22	バランス検査②実技 / 立ち直り・平衡反応				
23	上肢機能検査 / STEF				

<p>講義方法 講義形式の授業で基礎知識を理解する。実技を通して的確に測定・評価を行えるようにする。 前回の実技内容について講義開始時に復習で確認をする</p>
<p>講義で使用する機器・教材 プラットフォーム、各種検査器具、PC、プロジェクター 骨模型、筋模型、血圧計、聴診器、ゴニオメーター ストップウォッチ、杖、車いす、歩行器、装具など</p>
<p>履修上の注意事項 実技演習の際は積極的に体験するように努める事 実習着(ケーシー)着用、臨床実習相応の身なりに整える(不十分な場合は適宜、指導を行う)</p>
<p>成績評価方法 実技テスト80%(前半40%、後半40%)、筆記試験20% 身なり、実習態度が不適切な場合、評定から減点する</p>
<p>教科書・参考書 DVDシリーズPT・OTのための測定評価(ROM測定・形態測定・反射検査・バランス評価)、新徒手筋力検査法 参考書:標準作業療法学専門分野 作業療法評価学第4版 ベッドサイドの神経の診かた改訂18版</p>
<p>予習復習のアドバイス 授業で配布されたプリント資料などを内容別に整理ファイリングして、後日利用できるようにすること 講義開始時に前回分の実技内容の確認を行うので復習・練習しておくこと</p>

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	2年
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	作業療法評価学概論	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年， 福祉機関（通所介護）7年， 作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	作業療法について、面接・観察・検査測定の意味を理解する。 対象者を理解するために行うべき評価が考察できる。				
	到達目標				
学生が作業療法の現状を知り、用いられる作業療法評価の具体的内容を説明できる。 学生が評価のために行う面接・観察・検査、測定を知ることができる。 学生が検査などで得られた情報から今後の治療にどう役立てていくかを整理できる。					
回数	講義内容				
1	人について知る，OTの役割，病期別				
2	OT評価の流れ，評価項目，関連法規				
3	基本的情報収集，記録・報告の意義と特徴				
4	面接・観察・検査測定				
5	心身機能・身体構造評価				
6	活動・参加の評価				
7	個人因子の評価				
8	統合と解釈				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。 グループ学習
講義で使用する機器・教材 パソコン、プロジェクター
履修上の注意事項 教科書を持参する。 グループ学習において、積極的に意見交換をする。
成績評価方法 試験（100%）で成績を評価する。 また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評定できない。 授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）
教科書・参考書 標準作業療法学 作業療法評価学第4版 医学書院 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版 医学書院
予習復習のアドバイス 教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。 講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	2
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	身体機能作業療法評価学Ⅰ（中枢）	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	矢野大輔、藤井貴	実務経験	矢野：医療機関(病院),介護施設(訪問看護,老健施設)に14年勤務. 藤井：医療機関,通所介護施設に14年勤務.		
講義目標	一般目標				
	・中枢疾患に応じた作業療法評価を説明できる. ・中枢疾患に応じた作業療法目標を設定できる.				
	到達目標				
	①疾患に対する一般的な評価が列挙でき、基礎知識（解剖,運動,生理）を関連付けた評価目的を理解できる. ②疾患に応じた作業療法評価時の注意事項を説明できる. ③疾患の状況に合わせた目標設定を説明できる.				
回数	講義内容				
1	中枢疾患を理解する				
2	疾患特性とADL				
3	ADLの評価				
4	面接・観察				
5	検査測定(関節可動域/形態測定)				
6	検査測定(感覚検査)				
7	検査測定(筋緊張・反射検査)				
8	検査測定(姿勢反射/バランス)				
9	上肢機能検査(Br.stage ,MFT)				
10	上肢機能検査(Br.stage ,MFT)				
11	検査測定(協調性検査)				
12	検査測定(姿勢観察)				
13	検査測定(動作分析)				
14	検査測定(動作分析)				
15	統合と解釈/テストバッテリー/予防評価				

講義方法

講義では教科書を使用する。適宜、資料としてプリントを配布する。グループ学習を行う。

講義で使用する機器・教材

ケース型白衣と靴、各種検査器具、プラットフォーム

履修上の注意事項

解剖学・運動学・生理学の知識をベースとした疾患理解が必要となる為、予習復習をきちんと行うこと
講義での疑問、質問に関しては放置することなく解決のために行動すること

成績評価方法

試験（100%）で成績を評価する。授業態度も評定の対象とする。（減点方式）適宜レポート作成を行い、評定のための資料とする。

教科書・参考書

標準作業療法学作業療法評価学第4版 参考書：標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版、作業療法技術ガイド

予習復習のアドバイス

教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行うこと。
ipadを活用し、実技風景を録画するなど学習効果を高める努力をすること。
評価実習で活用できるよう、学んだ知識、技術の整理を心掛けること。

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	身体機能作業療法評価学Ⅱ（整形）	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	矢野大輔 藤井貴 上遠野純子	実務経験	上遠野純子:医療機関(リハ専門病院・大学病院)20年,介護福祉事業所3年勤務. 藤井貴:医療機関7年,通所介護7年勤務. 矢野大輔:医療機関3年4か月,訪問看護,老健施設10年8か月勤務.		
講義目標	一般目標				
	疾患に応じた作業療法評価学を説明できる. 疾患に応じた作業療法目標を設定できる.				
講義目標	到達目標				
	疾患に対する一般的な評価が列挙でき、疾患における作業療法評価時の注意事項を説明できる. 疾患における作業療法評価時の注意事項を説明できる. 基礎知識(解剖,運動,生理)を関連付けた評価目的を理解できる.				
回数	講義内容				
1	骨折を理解する(上肢骨折、大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折など)				
2	骨折を理解する(上肢骨折、大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折など)				
3	骨折のADL				
4	骨折の評価				
5	末梢神経疾患/末梢神経障害、CRPSについて				
6	末梢神経疾患/慢性疼痛のADL、評価				
7	脊髄損傷を理解する				
8	脊髄損傷のADL				
9	脊髄損傷の評価①				
10	脊髄損傷の評価②				
11	関節リウマチを理解する				
12	関節リウマチのADL				
13	関節リウマチの評価				
14	画像評価①				
15	画像評価②				

講義方法

教科書,スライドを使用しながら座学と実技を織り交ぜて実施する.
また,適宜,資料としてプリントを配布するのでファイリングして持参すること.

講義で使用する機器・教材

PC スクリーン ホワイトボード
ブラットホーム

履修上の注意事項

講義内容は情報量が多く,進行も早い為,欠席や居眠りしないよう自己管理に注意すること
また,評価学ⅠⅢの内容と混同しないよう,配布資料をファイリングして整理し試験対策に臨むこと

成績評価方法

試験(100%)で成績を評価する.授業態度も評定の対象とする.(減点方式)また課題の取り組み内容も評定する.

教科書・参考書

標準作業療法学 作業療法評価学第4版 参考書:標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版,
作業療法技術ガイド,作業療法学全書改定第3版 作業療法治療学1 身体障害

予習復習のアドバイス

- ①計画的に予習を行うこと.
- ②講義での疑問,質問に関しては放置することなく解決のために行動すること
- ③ipadを活用し,実技風景を録画するなど学習効果を高める努力をすること.
- ④評価実習で活用できるよう,学んだ知識,技術の整理を心掛けること.

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	身体機能作業療法評価学Ⅲ（内部）	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	矢野 大輔、藤井貴、淀川裕美	実務経験	矢野大輔：医療機関,訪問看護,老健施設14年勤務 藤井貴：医療機関,通所介護に14年勤務. 淀川裕美：医療機関,介護施設、訪問看護15年勤務		
講義目標	一般目標				
	疾患に応じた作業療法評価を説明できる. 疾患に応じた作業療法目標を設定できる.				
	到達目標				
	疾患に対する一般的な評価が列挙できる. 疾患の状況に合わせた目標設定を説明できる.基礎知識(解剖,運動,生理)を関連付けた評価目的を理解できる. 疾患における作業療法評価時の注意事項を説明できる.				
回数	講義内容				
1	心疾患を理解する				
2	心疾患の評価				
3	呼吸器疾患を理解する				
4	呼吸器疾患の評価				
5	代謝疾患を理解する				
6	代謝疾患の評価				
7	悪性腫瘍を理解する				
8	悪性腫瘍の評価				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

講義方法

教科書,スライドを使用しながら座学と実技を織り交ぜて実施する.また,適宜,資料としてプリントを配布する

講義で使用する機器・教材

PC、スクリーン、プロジェクター
聴診器、パルスオキシメーター 骨模型

履修上の注意事項

身体機能評価学ⅠⅡの内容と混同しないよう配布資料はきちんと分けてファイリングし整理すること
講義での疑問,質問に関しては放置することなく解決のために行動すること.

成績評価方法

試験(100%)で成績を評価する.
授業態度も評定の対象とする(減点方式).

教科書・参考書

標準作業療法学 作業療法評価学第4版,標準作業療法学 第3版
参考書:作業療法技術ガイド,標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版,作業療法学全書改定第3版 作業療法治療学1身体障害

予習復習のアドバイス

配布資料、教科書を使用し計画的に予習復習を行うこと.
ipadを活用し,実技風景を録画するなど学習効果を高める努力をすること.
評価実習で活用できるよう,学んだ知識,技術の整理を心掛けること.

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	前期	学 年	2年
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	高次脳機能作業療法評価学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年，作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	高次脳機能障害の評価指標の臨床活用について学ぶ				
	到達目標				
	作業療法士が援助する高次脳機能障害に対する評価の考え方と実践方法を身に着け、臨床実習や卒後に汎用できる素地を身に着ける				
回数	講義内容				
1	高次脳機能障害の基礎知識 高次脳機能障害とは？脳の障害部位と症状の関連				
2	失語症とは（失語症の分類とその症状について）				
3	失語症の評価指標について				
4	失行症とは（失行症の分類とその症状について）				
5	失行症の評価指標について				
6	失認症とは（失認症の分類とその症状について）				
7	失認症の評価指標について				
8	注意障害とは（注意障害の分類とその症状について）				
9	注意障害の評価指標について				
10	半側空間無視とは（方向性注意と失認の関連性やその症状について）				
11	半側空間無視の評価指標について				
12	記憶障害とは（記憶の種類と障害像について）				
13	記憶障害の評価指標について				
14	前頭葉障害について（遂行機能障害や前頭葉症状について）				
15	まとめ				

講義方法

座学講義形式

講義で使用する機器・教材

パワーポイント資料をデータで配付
プロジェクターを活用し投影するためスクリーンを準備
PCは教員が持ち込みます

履修上の注意事項

1年次に学んだ解剖学の知識等も振り返りながら学習を深めましょう

成績評価方法

期末試験100%で評価します

教科書・参考書

作業療法治療学5「高次脳機能障害」協同医書出版社

予習復習のアドバイス

講義当日中に当該項目が理解されているかを振り返りましょう！
予習を行う場合は、教科書を何度も読むことをお勧めします

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	2
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	精神機能作業療法評価学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	酒井 良隆	実務経験	医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務		
講義目標	一般目標				
	精神障害領域における作業療法について、その実践過程を理解する。 様々な評価手段とその手順を習得し、目標設定を行うことが出来る。				
	到達目標				
精神機能作業療法における、様々な評価手段について理解する。 作業療法における、基本的な視点と方法について理解する。 精神障害作業療法における、歴史的背景を理解する。					
回数	講義内容				
1	作業療法における評価とは				
2	精神機能作業療法における評価①				
3	精神機能作業療法における評価②				
4	ライフサイクルと生活課題①				
5	ライフサイクルと生活課題②				
6	精神機能作業療法の歴史的背景（世界編）				
7	精神機能作業療法の歴史的背景（日本編）				
8	作業・作業活動を介した回復支援				
9	作業・作業活動を介した生活支援				
10	観察について				
11	作業面接について				
12	集団とその治療的応用①				
13	集団とその治療的応用②				
14	自己分析①				
15	自己分析②				
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。
講義で使用する機器・教材 PC、プロジェクター、iPad、映像資料
履修上の注意事項 覚える内容は覚え、技術として身につけることは練習して身につける
成績評価方法 試験(100%)、授業態度は減点方式、レポート作成を適宜行い評定資料とする。
教科書・参考書 標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第3版 医学書院
予習復習のアドバイス 提示資料の内容だけでなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	2
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	発達過程作業療法評価学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	上遠野 純子、畑中一枝	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	各時期の発達過程における作業療法評価法を理解する。				
	到達目標				
	(1)発達過程の、特に乳幼児・児童期・青年期の発達遅れの障害像を理解出来、作業療法評価法を実施出来る。 (2)感覚統合の発達過程における遅れの要因と障害像を理解出来、評価を実施出来る。 (3)心理社会的機能障害の要因を理解出来、評価を実施できる。 (4)子どものADL評価が実施出来る。				
回数	講義内容				
1	発達過程作業療法 発達障害とは 理念・目的・発達年齢・発達障害①				
2	発達過程作業療法 発達障害とは 理念・目的・発達年齢・発達障害②				
3	ADL評価（Wee-FIM）				
4	ADL評価（JASPER,摂食嚥下評価）				
5	全般的評価（JDDST-R）				
6	全般的評価（遠城寺式乳幼児分析的発達検査）				
7	姿勢反射検査① ミラニー発達検査他				
8	粗大運動の評価①（GMFM）				
9	粗大運動の評価②（GMFM）				
10	微細運動の評価①（上肢MAT、EDPA）				
11	微細運動の評価②（上肢MAT、EDPA）				
12	視覚機能機能障害の評価				
13	職業レディネス				
14	職業レディネス				
15	心理社会的評価				
16					
17					
18					
19					
20					

<p>講義方法 座学と演習を行う。</p>
<p>講義で使用する機器・教材 PC、IPADを適宜使用する</p>
<p>履修上の注意事項 人間発達学の教科書の内容を、何度も振り返ることによって知識の定着を図り、発達過程を覚えること。 key wordは、自分なりに調べて、理解をすること。</p>
<p>成績評価方法 期末試験70%、課題20%、授業態度10%で評定する。</p>
<p>教科書・参考書 (教科書)標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学 医学書院、 (参考書)標準作業療法学 専門分野 第4版作業療法評価学、作業療法学全書第6巻 作業治療学3 発達障害</p>
<p>予習復習のアドバイス 関連する過去の国家試験問題を探し、解いてみる。分からない時には、即解決すること。</p>

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	2
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	高齢期作業療法評価学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年, 福祉機関（通所介護）7年, 作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	高齢期作業療法の意義を理解し、高齢者の特徴を捉えた上で、CLを中心とした個別的な生活サービスに必要な評価の具体的内容を理解し、実施することができる。				
	到達目標				
学生が高齢者の特徴を理解できる。 学生が高齢者の抱えている背景を理解できる。 学生が作業療法評価項目、実践過程を理解できる。					
回数	講義内容				
1	オリエンテーション 高齢者へ作業療法は何故行われる？				
2	高齢者を理解するために① 高齢者の身体的変化				
3	高齢者を理解するために② 時代背景、ライフイベント・高齢社会				
4	高齢者を理解するために③ ライフステージ、QOL、4つの喪失				
5	高齢者を理解するために④ 役割、ライフスタイル、作業バランス				
6	高齢者を理解するために⑤ 認知症についての理解				
7	高齢者を理解するために⑥ 認知症についての理解				
8	高齢者の作業療法評価の視点 評価の流れ・手順				
9	評価の流れ・評価法① どのような人かを知るには？				
10	評価の流れ・評価法② どうなりたいかを知るには？				
11	評価の流れ・評価法③ どうやっているのかを知るには？				
12	評価の流れ・評価法④ 何故こうなっているのかを知るには？				
13	事例検討				
14	高齢期の作業療法（外部講師）				
15	高齢期の作業療法（外部講師）				
16					
17					
18					
19					
20					

<p>講義方法 講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。 グループ学習 後期の高齢期評価学演習との連動</p>
<p>講義で使用する機器・教材 パソコン、プロジェクター</p>
<p>履修上の注意事項 教科書を持参する。 資料を管理する(ファイリングをする) グループ学習において、積極的に意見交換をする。</p>
<p>成績評価方法 試験(100%)で成績を評価する。 また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評定できない。 授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。(評定に含めます。)</p>
<p>教科書・参考書 高齢者のその人らしさを捉える作業療法 文光堂 標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学 医学書院</p>
<p>予習復習のアドバイス 教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。 講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。</p>

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	身体機能評価学演習	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	矢野大輔、藤井貴	実務経験	藤井：医療機関、介護施設に14年 矢野：医療機関、介護施設に14年		
講義目標	一般目標				
	・作業療法評価における臨床技能・態度について学び、模倣できる ・基本動作が一連の流れで模倣実施できる				
	到達目標				
・できるようになるまで、主体的に指導を仰ぐことができる					
・各種検査測定における必要な知識が備わっている ・各種検査測定が正確に模倣実施できる					
・作業療法評価を一連の流れで実施できる					
回数	講義内容				
1	オリエンテーション STEF & MFT 見学・模倣・実施				
2	STEF & MFT 見学・模倣・実施				
3	感覚検査 見学・模倣・実施				
4	バランス評価 見学・模倣・実施				
5	協調性検査 見学・模倣・実施				
6	片麻痺機能検査 BRS 見学・模倣・実施				
7	動作分析と介助方法（寝返り、起き上がり） 見学				
8	動作分析と介助方法（寝返り、起き上がり） 模倣				
9	動作分析と介助方法（寝返り、起き上がり） 実施				
10	動作分析と介助方法（トランスファーと車椅子の介助方法） 見学				
11	動作分析と介助方法（トランスファーと車椅子の介助方法） 模倣				
12	動作分析と介助方法（トランスファーと車椅子の介助方法） 実施				
13	動作分析と介助方法（歩行） 見学				
14	動作分析と介助方法（歩行） 模倣				
15	動作分析と介助方法（歩行） 実施				

講義方法

見学(教員が手本)⇒模倣(学生と教員)⇒実施(学生主体)の順序で講義を進める
iPadを使用し実技場면을撮影、チェッカーが実技状況をチェックする

講義で使用する機器・教材

各種検査用具、PC、プロジェクター
クリップボード 記録用紙

履修上の注意事項

グループで役割分担し進めていく為、極力欠席しないよう体調管理に努めること
講義時間内では終わらない場合もあるため、空き時間を活用して進めること

成績評価方法

実技テスト80% 筆記試験20% ※授業態度が悪い場合は評定から減点とする
※各課題をグループ全員で取り組み提出すること 自己都合で非協力的な場合は評定から減点とする

教科書・参考書

PT・OTのための 臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版 才藤栄一監修 金原出版

予習復習のアドバイス

何度も練習すること、対象者役のペアを頻繁に変えることが実技上達への鍵となる為、決まった相手とだけ練習しないこと

撮影課題は時間外にグループで協力することが必要なため、自己都合を優先せずに周囲とスケジュールを合わせる

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	前期	学 年	2年
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	高次脳機能作業療法評価学演習	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	淀川裕美・原田勝行・金澤聡	実務経験	リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年，作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	高次脳機能障害の評価指標の臨床活用について学び、対象者の理解を図るために必要な手法を理解する				
	到達目標				
	作業療法士が援助する高次脳機能障害に対する評価の考え方と実践方法を身に着け、臨床実習や卒後に汎用できる状態を確保する				
回数	講義内容				
1	失語症の評価の実施				
2	失行症の評価の実施				
3	失認症の評価の実施				
4	注意障害の評価の実施				
5	記憶障害の評価の実施				
6	遂行機能障害の評価の実施				
7	前頭葉機能障害の評価の実施				
8	まとめ				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

講義方法

座学と実技演習を取り入れる

講義で使用する機器・教材

パワーポイント資料をデータで配付
プロジェクターを活用し投影するためスクリーンを準備
PCは教員が持ち込みます

履修上の注意事項

1年次に学んだ解剖学の知識等も振り返りながら学習を深めましょう

成績評価方法

期末試験(50%)演習の実施状況(50%)で総合的に評価します

教科書・参考書

作業療法治療学5「高次脳機能障害」協同医書出版社

予習復習のアドバイス

講義当日中に当該項目が理解されているかを振り返りましょう！
予習を行う場合は、教科書を何度も読むことをお勧めします

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	2
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	精神機能作業療法評価学演習	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	酒井 良隆	実務経験	医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務		
講義目標	一般目標				
	様々な評価手段とその手順を習得することが出来る。 精神障害領域における作業療法について、その実践過程を各種評価の演習によって体験できる				
	到達目標				
	精神機能作業療法における、様々な評価手段について理解した上で実践できる 作業療法における、基本的な視点と方法について理解した上で実践できる				
回数	講義内容				
1	観察①				
2	観察②				
3	作業面接①				
4	作業面接②				
5	各種評価方法の実践①				
6	各種評価方法の実践②				
7	評価の解釈①				
8	評価の解釈②				
9					
10					
講義方法 講義では、資料としてプリントを配布する。グループ学習が中心になる					
講義で使用する機器・教材 PC、プロジェクター、iPad					
履修上の注意事項 ROMやMMTなどと同じ技術を身につける科目です。 練習しなければできるようになりません。繰り返し練習と日々の生活での実践を心がけてください。					
成績評価方法 レポート作成(60%)、演習への取り組む姿勢(20%)、出席(20%)、授業態度減点方式					
教科書・参考書 標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第3版 医学書院					
予習復習のアドバイス グループワークでの意見交換を意識する。自分の発言を意識して実践する。					

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	2年
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	発達過程作業療法評価学演習	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野 純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標 各時期の発達過程における作業療法評価法を理解する。				
	到達目標 (1)発達過程の、特に乳幼児・児童期・青年期の発達遅れの障害像を理解出来、作業療法評価法を実施出来る。 (2)感覚統合の発達過程における遅れの要因と障害像を理解出来、評価を実施出来る。 (3)心理的社会的機能障害の要因を理解出来、評価を実施できる。(4)子どものADL評価が実施出来る				
回数	講義内容				
1	姿勢反射検査				
2	粗大運動の評価（GMFM）演習				
3	微細運動の評価（上肢MAT、EDPA）演習				
4	微細運動の評価（上肢MAT、EDPA）演習				
5	視覚機能機能障害の評価演習				
6	ADL評価演習				
7	職業レディネス				
8	心理社会的評価演習				
9					
10					
講義方法 座学と演習を行う。					
講義で使用する機器・教材 PC、IPADを適宜使用する					
履修上の注意事項 人間発達学の教科書の内容を、何度も振り返ることによって知識の定着を図り、発達過程を覚えること。 key wordは、自分なりに調べて、理解をすること。					
成績評価方法 演習課題遂行状況ならびに課題、授業態度で評定します。					
教科書・参考書 標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学					
予習復習のアドバイス 関連する過去の国家試験問題を探し、解いてみる。分からない時には、即解決すること。					

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	前期	学 年	
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	MTDLP生活行為向上マネジメント	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年, 福祉機関（通所介護）7年, 作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	生活行為向上マネジメントを理解する。 生活行為向上マネジメントシートの活用(事例)ができる。				
講義目標	到達目標				
	学生が生活行為向上マネジメントの背景を知っている。 学生が生活行為向上マネジメントのプロセスを理解できる。				
回数	講義内容				
1	作業と生活行為				
2	生活行為向上マネジメント開発の背景				
3	生活行為向上マネジメントと作業療法				
4	生活行為向上マネジメントの使い方①				
5	生活行為向上マネジメントの使い方②				
6	生活行為向上マネジメントによる連携				
7	生活行為向上マネジメント事例①				
8	生活行為向上マネジメント事例②				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

<p>講義方法 講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。 グループ学習</p>
<p>講義で使用する機器・教材 パソコン、プロジェクター</p>
<p>履修上の注意事項 教科書を持参する。 グループ学習において、積極的に意見交換をする。</p>
<p>成績評価方法 試験（80%）、課題（20%）で成績を評価する。 また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評定できない。 授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。（評定に含めます。）</p>
<p>教科書・参考書 事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版 作業療法マニュアル66 生活行為向上マネジメント 改訂第3版</p>
<p>予習復習のアドバイス 教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。 講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。</p>

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	後期	学年	2
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	身体機能治療学Ⅰ（中枢）	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	矢野大輔、佐藤秀美、外部講師	実務経験	矢野：医療機関(病院),介護施設(訪問看護,老健施設)に14年作業療法士として勤務. 佐藤：医療機関(病院,訪問)に9年,作業療法士として勤務.		
講義目標	一般目標				
	疾患に応じた機能回復メカニズム,機能的予後について説明できる. 疾患に応じた医学的治療と作業療法の関連について考察できる.				
	到達目標				
	①学生が疾患に対する機能回復のメカニズムを理解できる.				
	②学生が疾患における予後予測を立て,生活行為に関連付けられる. ③学生が作業療法実施上のリスク管理の観点と医学的治療を知っている. ④学生が基礎知識(解剖,運動,生理)を関連付けた医学的治療を理解できる.				
回数	講義内容				
1	脳血管疾患の作業療法①				
2	脳血管疾患の作業療法②				
3	脳血管疾患の作業療法③				
4	脳血管疾患の作業療法④				
5	脳血管疾患の作業療法⑤				
6	脳血管疾患の作業療法⑥				
7	頭部外傷の作業療法				
8	パーキンソン病の作業療法①				
9	パーキンソン病の作業療法②				
10	パーキンソン病の作業療法③				
11	神経・筋疾患/脊髄小脳変性症の作業療法①（ALS/MS/GBS）				
12	神経・筋疾患/脊髄小脳変性症の作業療法②（ALS/MS/GBS）				
13	神経・筋疾患/脊髄小脳変性症の作業療法③（ALS/MS/GBS）				
14	脊髄小脳変性症の作業療法①				
15	脊髄小脳変性症の作業療法②				

講義方法

講義では教科書を使用する。
適宜、資料としてプリントを配布する
グループ学習を行う。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター、スクリーン、ホワイトボード、骨模型

履修上の注意事項

身体機能評価学Ⅰで学んだ内容を基に治療法を学んでいく為、評価学の講義内容を復習しておくこと
神経内科学の教科書を読み疾患について予習しておくこと

成績評価方法

試験（100%）で成績を評価する。
授業態度も評定の対象とする。（減点方式）
適宜レポート作成を行い、評定のための資料とする。

教科書・参考書

標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法第4版、標準作業療法学専門分野 作業療法評価学第4版
参考書：作業療法技術ガイド第4版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版

予習復習のアドバイス

- ①教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行うこと。
- ②講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応すること。
- ③評価実習で活用できるよう、知識と技術の蓄積を行うこと。

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	身体機能治療学Ⅱ（整形）	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	矢野大輔、佐藤秀美	実務経験	矢野：医療機関(病院),介護施設(訪問看護,老健施設)に14年作業療法士として勤務. 佐藤：医療機関(病院,訪問)に9年,作業療法士として勤務.		
講義目標	一般目標				
	疾患に応じた機能回復メカニズム,機能的予後について説明できる. 疾患に応じた医学的治療と作業療法に関連について考察できる.				
	到達目標				
	①疾患に対する機能回復のメカニズムを理解できる. ②疾患における予後予測を立て,生活行為に関連付けられる. ③作業療法実施上のリスク管理の観点と医学的治療を知っている. ④基礎知識(解剖,運動,生理)を関連付けた医学的治療を理解できる.				
回数	講義内容				
1	関節リウマチの作業療法①				
2	関節リウマチの作業療法②				
3	手の外科 作業療法①				
4	手の外科 作業療法②				
5	熱傷の作業療法				
6	骨折の作業療法①				
7	骨折の作業療法②				
8	骨折の作業療法③				
9	末梢神経疾患/慢性疼痛の作業療法①				
10	末梢神経疾患/慢性疼痛の作業療法②				
11	脊髄損傷の作業療法①				
12	脊髄損傷の作業療法②				
13	脊髄損傷の作業療法③				
14	脊髄損傷の作業療法④				
15	脊髄損傷の作業療法⑤				

講義方法

講義では教科書を使用する。グループ学習を行う。
適宜、資料としてプリントを配布する。
グループ学習を行う。

講義で使用する機器・教材

PC、スクリーン、ホワイトボード、プラットホーム

履修上の注意事項

身体機能評価学Ⅱで学んだ内容を基に治療・訓練方法を学ぶため、評価学の講義内容を復習しておくこと
評価学Ⅱの講義資料を持参し、治療学の講義と照らし合わせて学んでいくこと

成績評価方法

試験（100%）で成績を評価する。
授業態度も評定の対象とする（減点方式）。
課題への取り組み内容も評定のための資料とする。

教科書・参考書

標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法第4版、標準作業療法学専門分野 作業療法評価学第4版
参考書：作業療法技術ガイド第4版

予習復習のアドバイス

- ①教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。
- ②講義での疑問、質問に関しては放置せず解決のために賢族に行動する。
- ③ipadを活用し、学習効果を高める。④評価実習で活用できるよう、知識と技術の蓄積を行う。

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	後期	学 年	2年
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	高次脳機能障害作業療法治療学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15回
		単位時間数	30時間	単位数	2単位
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年，作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	高次脳機能障害の作業療法における実践と事例からアプローチの仕方を学ぶ				
	到達目標				
	作業療法士が援助する高次脳機能障害者に対しての実践方法を身につけ、臨床実習や卒業業務に生かすことができる				
回数	講義内容				
1	高次脳機能障害と作業療法介入：概要				
2	高次脳機能障害の分類と類型 高次脳機能障害への介入に関する手法・失語症に治療について①				
3	機能障害別アプローチの実際 失語症の治療について②				
4	機能障害別アプローチの実際 失行症の治療について①				
5	機能障害別アプローチの実際 失行症の治療について②				
6	機能障害別アプローチの実際 失認症の治療について①				
7	機能障害別アプローチの実際 失認症の治療について②				
8	機能障害別アプローチの実際 注意障害の治療について①				
9	機能障害別アプローチの実際 注意障害の治療について②				
10	機能障害別アプローチの実際 半側空間無視の治療について				
11	機能障害別アプローチの実際 記憶障害の治療について①				
12	機能障害別アプローチの実際 記憶障害の治療について②				
13	機能障害別アプローチの実際 遂行機能障害・前頭葉機能障害の治療について①				
14	機能障害別アプローチの実際 遂行機能障害・前頭葉機能障害の治療について②				
15	まとめ				

講義方法 座学を主として開講します
講義で使用する機器・教材 パワーポイント資料をデータで配布します プロジェクターに資料を投影し教示します PCは教員が持ち込みます
履修上の注意事項 教科書は必ず準備すること 事例の評価治療プログラムを検討するため、評価学の内容を振り返ること
成績評価方法 試験点数を100%で評定します
教科書・参考書 作業療法治療学5「高次脳機能障害」協同医書出版社 項目ごとに授業資料があります、onedriveにアップするためその都度ダウンロードをお願い致します
予習復習のアドバイス 講義当日中に当該項目が理解されているかを振り返りましょう！ 予習を行う場合は、教科書を何度も読むことをお勧めします

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	後期	学年	2
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	発達過程障害作業療法治療学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	上遠野 純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	運動発達系(心身障害)と精神障害系(知的障害、発達障害)の各疾患・障害における作業療法の評価を行い治療の過程を説明出来る				
	到達目標				
	運動発達系:脳性麻痺、二分脊椎、運動発達遅滞、重症心身障害(Down症を含む) 【知的障害、小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障害(広汎性発達障害、注意欠陥多動、学習障害を含む)、】 神経筋系:筋ジストロフィ等 上記疾患の作業療法過程を説明出来る。				
回数	講義内容				
1	脳性麻痺				
2	脳性麻痺				
3	脳性麻痺				
4	二分脊椎症				
5	骨形成不全症				
6	内部障害（循環器）				
7	内部障害（循環器）				
8	小児がん（脳腫瘍含む）				
9	筋ジストロフィー症				
10	筋ジストロフィー症				
11	重症心身障害者				
12	知的障害				
13	知的障害				
14	自閉スペクトラム障害（Autism Spectrum Disorder）				
15	注意欠如・多動性障害（Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder）				
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 座学、課題演習
講義で使用する機器・教材 プロジェクター、ビデオ、Ipadを適宜使用する
履修上の注意事項
成績評価方法 各疾患ごとの演習課題ならびに学期末試験にて総合評定を行う。
教科書・参考書 標準作業療法学 発達過程作業療法学 第3版 理学療法学テキスト小児理学療法学 メディカルビュー社
予習復習のアドバイス 資料を事前配布しますので、その内容は必ず知識として定着してください。

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	2
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	高齢期作業療法治療学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年， 福祉機関（通所介護）7年， 作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	疾患に応じた作業療法アプローチ、機能的予後について説明できる。 疾患に応じた医学的治療と作業療法のプランを作成できる。				
	到達目標				
		学生が高齢期に多い疾患における予後予測を立て、生活行為に関連付けられる。 学生が高齢期における、その人を知る視点を考察できる。 学生が作業療法実践過程を理解できる。			
回数	講義内容				
1	高齢期の一般的特徴 その人らしい作業の捉えかた				
2	高齢期に多い疾患				
3	高齢期に注意すること				
4	大切な作業を実現するための方法				
5	その人の役割・生きがいを知る				
6	その人の生活習慣を知る				
7	その人を取り巻く環境を知る				
8	その人の生活のバランスを知る				
9	作業療法介入アプローチの視点・治療理論 治療理論（MOHO, CMOP, ICF）				
10	高齢者に対する治療技法（治療構造） 治療技法（治療構造）				
11	高齢者のその人らしさを支える作業療法				
12	高齢期の作業療法（ケース検討）				
13	高齢期の作業療法（ケース検討）				
14	高齢期の作業療法（外部講師）				
15	高齢期の作業療法（外部講師）				
16					
17					
18					
19					
20					

<p>講義方法 講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。 グループ学習</p>
<p>講義で使用する機器・教材 パソコン、プロジェクター</p>
<p>履修上の注意事項 教科書を持参する。 資料を管理する(ファイリングをする) グループ学習において、積極的に意見交換をする。</p>
<p>成績評価方法 試験(100%)で成績を評価する。 また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評定できない。 授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。(評定に含めます。)</p>
<p>教科書・参考書 高齢者のその人らしさを捉える作業療法 文光堂 標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学 医学書院</p>
<p>予習復習のアドバイス 教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。 講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。</p>

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	1
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	日常生活活動実習Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年，作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	①日常生活活動・手段的日常生活動作の概念について説明できる ②日常生活活動・手段的日常生活動作の評価について説明できる				
	到達目標				
	①日常生活活動・手段的日常生活動作の概念をふまえて対象者理解に用いることができる ②日常生活活動・手段的日常生活動作の評価を対象者の生活像に反映できる				
回数					
1	はじめに：本講義で行うこと・ADLとは（この科目で学ぶ内容とそれをどのように実際に活用するのかを説明します）				
2	ADLの領域と評価について（対象者の日常生活を何を用いてどのように捉えるか）				
3	ADLとIADLの評価（基本的なADLと手段，応用としてのADLを対象者の価値観と照らし合わせて理解する）				
4	ADLの各論（基本的なADLに含まれるものと）				
5	起居・移動とは				
6	食事とは				
7	食事とは				
8	更衣とは				
9	更衣とは				
10	整容とは				
11	整容とは				
12	排泄とは				
13	排泄とは				
14	入浴とは				
15	入浴とは				
16	家事（調理について）				
17	家事（掃除について）				
18	IADLにより得られること				
19	育児とは				
20	ADLにおけるOT支援の在り方				
21	ADLと福祉用具				
22	ADLと福祉用具関連制度について				
23	まとめ				

講義方法 座学と演習(グループまたは個別のワーク)にて実施します 演習においては原則的に実習着は不要ですが、必要時は事前に通知をします
講義で使用する機器・教材 教科書:ゴールドマスターテキスト 日常生活活動(ADL)を毎回持参ください 資料:teamsにて資料データを配布します(各自ダウンロードをお願いします)
履修上の注意事項 座学講義でお話した内容を元にグループまたは個別のワークを通して理解を深める形式で進めます。都度の意見交換も大切な学びになることを留意し取り組んでください
成績評価方法 科目講義が終了次第試験を実施し、本試験結果を8割、講義取り組みやワークの実績等を2割分で評定します
教科書・参考書 ゴールドマスターテキスト 日常生活活動(ADL)
予習復習のアドバイス 講義演習時間に集中し、課題等にも時間内に終了させるように取り組まれることをお勧めします

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	後期	学年	1
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	日常生活活動実習Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	1
講師名	淀川裕美	実務経験	リハ専門病院3年、介護施設2年、訪問地域作業療法領域10年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	①ライフサイクル別の日常生活活動・手段的日常生活動作の概念について説明できる ②ライフサイクル別の日常生活活動・手段的日常生活動作の違いや特徴、疾患における影響について説明できる運動学実習で、作業療法に必要な知識と技術を習得する				
	到達目標				
回数	講義内容				
1	ADLにおける作業療法支援法（直接的支援法と準備的支援法）について学び、対象者への具体的な支援の在り方をワークで考えます				
2	ADLと福祉用具① 福祉用具を用途項目ごとに紹介し、実際の活用法や事例に沿った提供のイメージを考えます				
3	ADLと福祉用具② 福祉用具を用途項目ごとに紹介し、実際の活用法や事例に沿った提供のイメージを考えます				
4	福祉用具の活用と疾患別に特徴づけられる用具について紹介します				
5	ADL支援において関連する制度の情報や概念をご紹介します理解します				
6	ADL支援に関連する住環境アセスメントや用具のフィッティングについて紹介します				
7	ライフサイクル別のADLとはどのような事を学ぶのかをガイダンスし序章を説明します				
8	ライフサイクル別ADL①乳幼児期のADLの特徴				
9	ライフサイクル別ADL①乳幼児期のADL OTの介入や視点を説明しワークにて個別の考えを深めます				
10	ライフサイクル別ADL②学童期のADLの特徴				
11	ライフサイクル別ADL②学童期のADL OTの介入や視点を説明しワークにて個別の考えを深めます				
12	ライフサイクル別ADL③青年期のADLの特徴				
13	ライフサイクル別ADL③青年期のADL OTの介入や視点を説明しワークにて個別の考えを深めます				
14	ライフサイクル別ADL④成人期のADLの特徴				
15	ライフサイクル別ADL④成人期のADL OTの介入や視点を説明しワークにて個別の考えを深めます				
16	ライフサイクル別ADL⑤老年期のADLの特徴				
17	ライフサイクル別ADL⑤老年期のADL OTの介入や視点を説明しワークにて個別の考えを深めます				
18	疾患別のADLの特徴と支援について①脳血管疾患のADL支援				
19	疾患別のADLの特徴と支援について①脳血管疾患のADL支援				
20	疾患別のADLの特徴と支援について②認知症のADL支援				
21	疾患別のADLの特徴と支援について③リウマチのADL支援				
22	疾患別のADLの特徴と支援について④脊髄損傷のADL支援				
23	まとめ				

講義方法 座学と演習(グループまたは個別のワーク)にて実施します 演習においては原則的に実習着は不要ですが、必要時は事前に通知をします
講義で使用する機器・教材 教科書:ゴールドマスターテキスト 日常生活活動(ADL)を毎回持参ください 資料:teamsにて資料データを配布します(各自ダウンロードをお願いします)
履修上の注意事項 座学講義でお話した内容を元にグループまたは個別のワークを通して理解を深める形式で進めます。都度の意見交換も大切な学びになることを留意し取り組んでください
成績評価方法 科目講義が終了次第試験を実施し、本試験結果を8割、講義取り組みやワークの実績等を2割分で評定します
教科書・参考書 ゴールドマスターテキスト 日常生活活動(ADL)
予習復習のアドバイス 講義演習時間に集中し、課題等にも時間内に終了させるように取り組まれることをお勧めします

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	通年	学年	2
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	仕事関連活動実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	1
講師名	酒井 良隆、田邊 裕靖、吉崎 伸一	実務経験	医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務		
講義目標	一般目標				
	仕事に関する活動が持つ特性と人や環境に与える影響を考慮することができる 対象に応じた作業活動を通じた課題や段階設定を行うことができる 対象者の作業バランスを考慮して、仕事に関するアプローチができる				
	到達目標				
	世の中のさまざまな仕事について、理解を深め、対象者の仕事の理解に役立てる 対象者にとっての仕事関連活動の意味を理解し、提供することができる 仕事関連活動に取り組むことによる、心身機能への影響を分析できる				
回数	講義内容				
1	仕事関連活動とは、仕事関連活動が人に与える影響について				
2	現状の障害者就労について				
3	最新の障害者就労について				
4	就労支援事業に従事する対象者の疾患特性を知る①				
5	就労支援事業に従事する対象者の疾患特性を知る②				
6	調べた内容の共有				
7	障害者就労の現場について				
8	事業所への質問事項の検討				
9	仕事としての家事				
10	キャリア形成の基礎①				
11	キャリア形成の基礎②				
12	人生年表①				
13	人生年表②				
14	地域包括ケアにおける社会起業家の取り組み				
15	社会課題とは、社会起業家とは？				
16	職場体験活動①				
17	職場体験活動②				
18	職場体験活動③				
19	職場体験活動④				
20	職場体験活動⑤				
21	職場体験活動⑥				
22	職場体験活動⑦				
23	職場体験活動⑧				

講義方法 講義、グループ学習、プレゼンテーション
講義で使用する機器・教材 PC、プロジェクター、iPad
履修上の注意事項 作業バランスの一つである仕事。作業バランスを整えるアプローチを考えるうえで、仕事について知ることは重要。受け入れる前に必ず「なぜ？」を習慣化してください。
成績評価方法 プレゼンテーション(60%)、グループワーク(20%)、出席(20%)
教科書・参考書 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学(第2版)
予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	2
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	余暇関連活動実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	1
講師名	酒井 良隆、 佐藤 秀美	実務経験	【酒井】医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務 【佐藤】医療機関に作業療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標				
	余暇活動が持つ特性と人や環境に与える影響を考慮することができる 対象に応じた作業活動を通じた課題や段階設定を行うことができる 対象者の作業バランスの状況について把握し、アプローチを考えることができる				
	到達目標				
	①グループワークを実施する中で、集団の持つ特性を経験することができる ②対象者にとっての余暇関連活動の意味を理解し、提供することができる ③余暇活動に取り組むことによる、心身機能への影響を分析できる				
回数	講義内容				
1	余暇関連活動とは はじめに				
2	余暇関連活動とは はじめに				
3	余暇関連活動が人に与える影響について（講義）				
4	余暇関連活動が人に与える影響について（グループワーク）①				
5	余暇関連活動が人に与える影響について（グループワーク）②				
6	余暇関連活動が人に与える影響について（グループワーク）③				
7	余暇関連活動が人に与える影響について（プレゼンテーション）①				
8	余暇関連活動が人に与える影響について（プレゼンテーション）②				
9	余暇関連活動が人に与える影響について（プレゼンテーション）③				
10	ライフステージにおける余暇活動（幼児期・児童期）				
11	ライフステージにおける余暇活動（青年期・成人期）				
12	ライフステージにおける余暇活動（老年期）				
13	ライフステージにおける余暇活動（グループワーク）①				
14	ライフステージにおける余暇活動（グループワーク）②				
15	ライフステージにおける余暇活動（プレゼンテーション）①				
16	ライフステージにおける余暇活動（プレゼンテーション）②				
17	ライフステージにおける余暇活動（プレゼンテーション）③				
18	事例を通じた余暇関連活動の導入（グループワーク）①				
19	事例を通じた余暇関連活動の導入（グループワーク）②				
20	事例を通じた余暇関連活動の導入（プレゼンテーション）①				
21	事例を通じた余暇関連活動の導入（プレゼンテーション）②				
22	事例を通じた余暇関連活動の導入（プレゼンテーション）③				
23	まとめ				

<p>講義方法 適宜、資料としてプリントを配布する。 講義・グループワーク・プレゼンテーションのサイクルで実施し、考え方の幅を広げていく</p>
<p>講義で使用する機器・教材 PC、プロジェクター、iPad</p>
<p>履修上の注意事項 グループワークはできる限り講義時間内で完結できることが望ましいが、進捗によっては講義時間外での実施も認める ただし、講義時間外にグループワークを実施する際は、担当教員の許可を得ることとする 「ただやればいい」の姿勢はすぐにわかります。講義態度に関わるため、状況によっては履修を認定しないこともある</p>
<p>成績評価方法 授業態度を評定の対象とする。(減点方式) プレゼンテーション(60%)、グループワーク(20%)、出席(20%)</p>
<p>教科書・参考書 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学 第2版 医学書院</p>
<p>予習復習のアドバイス グループ内での役割を責任もって遂行すること やりたくないことであっても、個人としての理由があっても、完遂すること</p>

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	通年	学年	2
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	代償学Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野 純子, 本地 光弘	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	対象とする障害像に合わせて使用する装具の、臨床での治療的適合方法や動作練習指導の学習する。実習を通して、装具の臨床場面での適切な選択や適合、指導の方法を学習する。				
	到達目標				
装具や自助具については、臨床場面で頻繁に活用されるものを中心に実際に作製し、製作技術を身につける。装具のチェックアウト技法を身につける。					
回数	講義内容				
1	義肢とは、装具とは				
2	スプリント実習（掌側型カックアップスプリントの作製①）型紙フィッティング、カッティング				
3	スプリント実習（掌側型カックアップスプリントの作製②）モールディング、加工				
4	スプリント実習（掌側型カックアップスプリントの作製③）チェックアウトと修正				
5	スプリント実習（短対立スプリント）ランチョウ型				
6	スプリント実習（短対立スプリント）レナサーム使用にて				
7	スプリント実習（8の字スプリント）				
8	自助具の開発・作成				
9					
10					
講義方法 実習・演習を中心に行います。けがのないように、道具や材料の使用に関して授業開始時にガイダンスをしますの是非参加ください。					
講義で使用する機器・教材 IPaD					
履修上の注意事項					
成績評価方法 学期末試験(50%)や出席率(20%)と併せて、実習では製作後のレポート提出(20%)と出来栄え(10%)によって評定する。					
教科書・参考書 特に使用しないが、適宜資料はデータにて配布します。					
予習復習のアドバイス 主に製作実習になるので、使用する道具の準備や後片付けはきちんと行う。怪我のないように細心の注意を払うこと。					

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	通年	学年	3年
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	代償学Ⅲ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	藤井 貴	実務経験	医療機関（病院・訪問）7年， 福祉機関（通所介護）7年， 作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標 対象者の生活を豊かにし、自立生活に用いる福祉用具について、その種類と機能、特性、選 適合を学び理解する。医療・福祉制度を加味した住環境整備、実践例を把握する。 地域リハの実態を体感する。				
	到達目標				
	学生が福祉用具の理論的な位置づけや評価の基本的方針を理解する。 学生が疾患別の福祉用具活用、具体的な選定・適合方法を学習する。 学生が障がいの特徴に合わせた住宅改修の考え方と作業療法士の役割を理解する。				
回数	講義内容				
1	建築の基礎知識 ① 住宅改造				
2	建築の基礎知識 ② 住宅改造				
3	自宅を考える（全体）				
4	自宅を考える（アプローチ、玄関）				
5	自宅を考える（トイレ）				
6	自宅を考える（浴室）				
7	住宅改造を考える				
8	福祉用具適応論				
9	福祉用具の運用				
10	宮城県リハセンター見学				
11	宮城県リハセンター見学				
12	介護予防教室見学				
13	介護予防教室見学				
14	福祉用具活用の実際（住宅改修案の作成）				
15	福祉用具活用の実際（住宅改修案の作成）				
16					
17					
18					
19					
20					

<p>講義方法 講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。 グループ学習 見学があるため、社会人としての振る舞いをする</p>
<p>講義で使用する機器・教材 パソコン、プロジェクター 見学の際、iPad</p>
<p>履修上の注意事項 教科書を持参する。 資料を管理する(ファイリングをする) グループ学習において、積極的に意見交換をする。</p>
<p>成績評価方法 試験(100%)で成績を評価する。 また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評定できない。(見学の参加を含む) 授業態度も評定の対象とする。講義内容に合わせて課題提出を求めます。(評定に含めます。)</p>
<p>教科書・参考書 作業療法学全書改定第3版 作業療法技術学10 福祉用具の使い方・住環境整備 協同医書出版 標準作業療法学 社会生活行為学 医学書院</p>
<p>予習復習のアドバイス 教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。 講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。</p>

講義要項（シラバス）シート

年 度	2024年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	地域作業療法学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	淀川裕美・佐藤秀美	実務経験	淀川：リハ専門病院3年，介護施設2年，訪問地域作業療法領域10年，作業療法士として勤務 佐藤：医療機関に作業療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標				
	地域共生社会(地域包括ケアシステム)にあたり求められる作業療法士の役割を想定する基盤を学び得る				
	到達目標				
	対象者に必要とされる地域サービスを助言のもと理解し、作業療法の実践を想定できる				
回数	講義内容				
1	地域リハビリテーションとは 地域とは何を示すか？地域リハの変遷と現在				
2	地域作業療法とは 地域の中で求められる作業療法はどのようなものかを考える。				
3	地域作業療法における関連制度とその内容について				
4	地域包括ケアシステムとはの概要について				
5	社会生活支援と連携について				
6	予防とは（一次予防・二次予防・三次予防の対象と手法について）				
7	ヘルスプロモーションとは				
8	介護保険制度とサービス概要				
9	介護保険制度とサービス概要				
10	介護保険制度と地域包括ケアシステムに関する作業療法士の在り方とは？				
11	実践事例（訪問サービスの実践）				
12	実践事例（通所サービスの実践）				
13	実践事例（病院から地域への移行に際して）				
14	実践事例（事例を通じた地域支援全般のまとめ）				
15	実践事例（事例を通じた地域支援全般のまとめ）				

講義方法 座学講義形式
講義で使用する機器・教材 パワーポイント資料をデータで事前配付します 資料をプロジェクター投影で講義を致します PCは教員が持ち込みます
履修上の注意事項 講義時間内に理解を深めるよう集中して取り組んでください
成績評価方法 試験対応課題を80%、他の課題と取り組み度合いを20%で総合評価します
教科書・参考書 標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 第3版
予習復習のアドバイス 介護保険制度や地域包括ケアシステム等、他の科目でも関連する内容が含まれます 教科書全般を一読頂くことをおすすめします

講義要項（シラバス）シート

年度	2024年度	時期	前期	学年	3
学科	作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	就労支援関連法規論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	上遠野 純子 酒井 良隆	実務経験	【上遠野】医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務 【酒井】医療機関（神経科・精神科）に作業療法士として12年勤務		
講義目標	一般目標				
	人にとっての就業の意義を探り、障害者の就労について考える				
	到達目標				
		<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の就労援助体制の現状を認識する ・職業リハビリテーションにおける作業療法の意義と役割について理解を深める 			
回数	講義内容				
1	オリエンテーション				
2	就労支援の基礎概念				
3	法制度と現状				
4	就労支援における介入				
5	職業評価				
6	職業評価				
7	障害者の就労援助体制の現状				
8	知的障害における就労支援				
9	身体障害における就労支援				
10	高次脳機能障害における就労支援				
11	精神障害における就労支援				
12	障害者職業センターにおける就労支援の実際				
13	ハローワークにおける就労支援の実際				
14	就労移行支援事業所における就労支援の実際				
15	就労継続支援事業所A・B型就労支援の実際				
16					
17					
18					
19					
20					

講義方法 講義内容により、外部演習、講義のスタイルをとる
講義で使用する機器・教材 PC、プロジェクター、iPad
履修上の注意事項 国家試験対策として、覚えるべきところは完全に覚えること。 障害者就労について、既存の施策と新しい価値観について触れ自身の展望に役立てる。
成績評価方法 学期末試験(100%)にて成績を評価する
教科書・参考書 就労支援の作業療法 -基礎から臨床実践まで- 中村俊彦ほか編著 医歯薬出版株式会社
予習復習のアドバイス ・事前に教科書を読んで、予習をすること。 ・わからないことがあったら、そのままに放置せず、必ずわかるまで調べるか、わかるまで聞く。